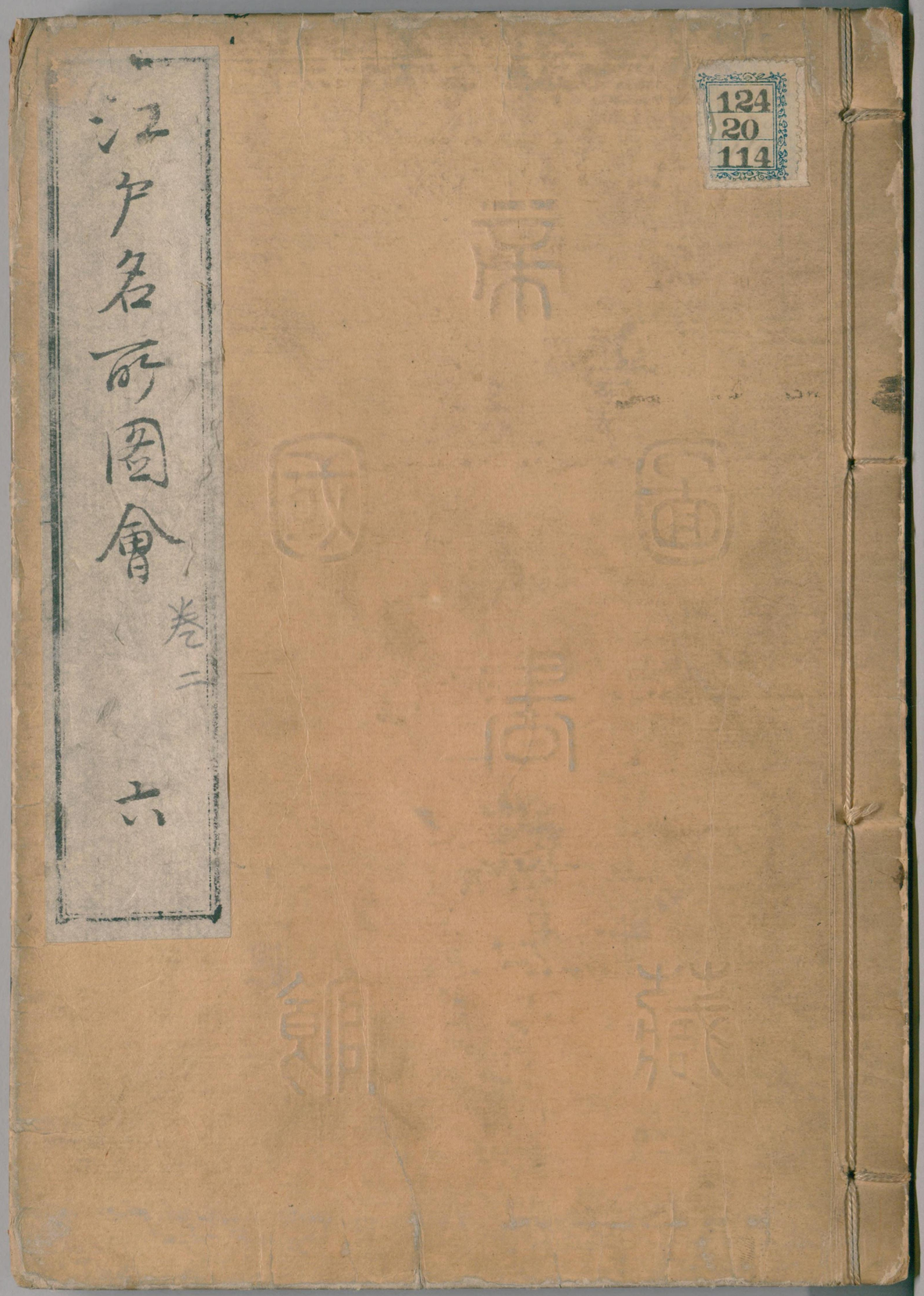

江戸名所図會 巻之七

124
20
114

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

江戸名所図會

六

124
20
114

二下

東京圖書館

和書門	地理類	別ノ函	六架	二の號	二〇冊

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

故柳原芳埜納本

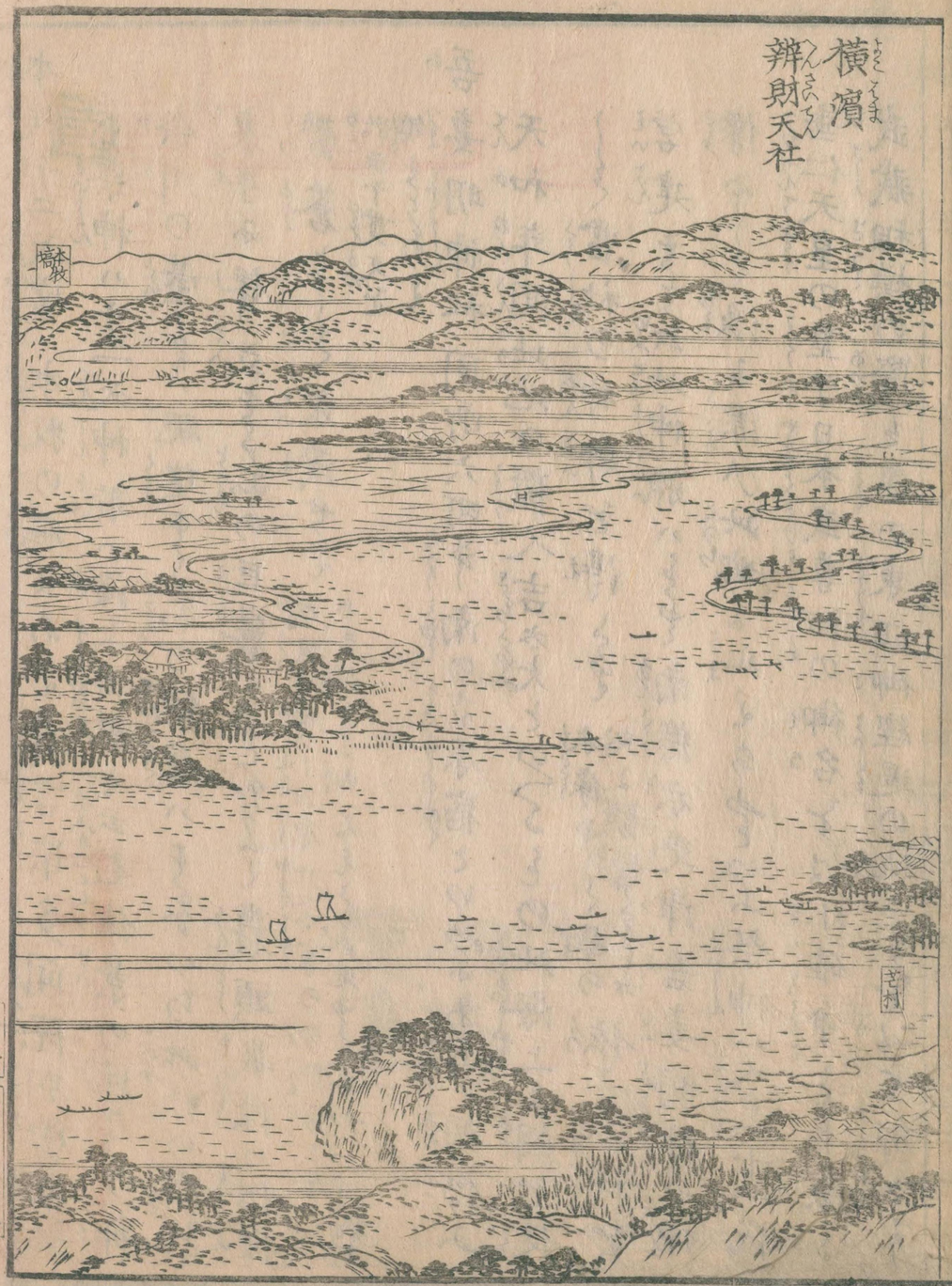
本牧十二天宮　本牧の嶋よりあり真言宗多聞院別當奉祀
也祭神ハ十二天神躰ハ海上出現と云右佳景の地なり神
祭りの墓より眺望せるわの絶壁ハもろいら此社の右方
に續つゝなりて巖頭數株の松梅
こゝに本牧の地ハ小田原北条家の分限帳よ左衛門尉
領せる由ゑゑく此地ゆく百姓文同福本

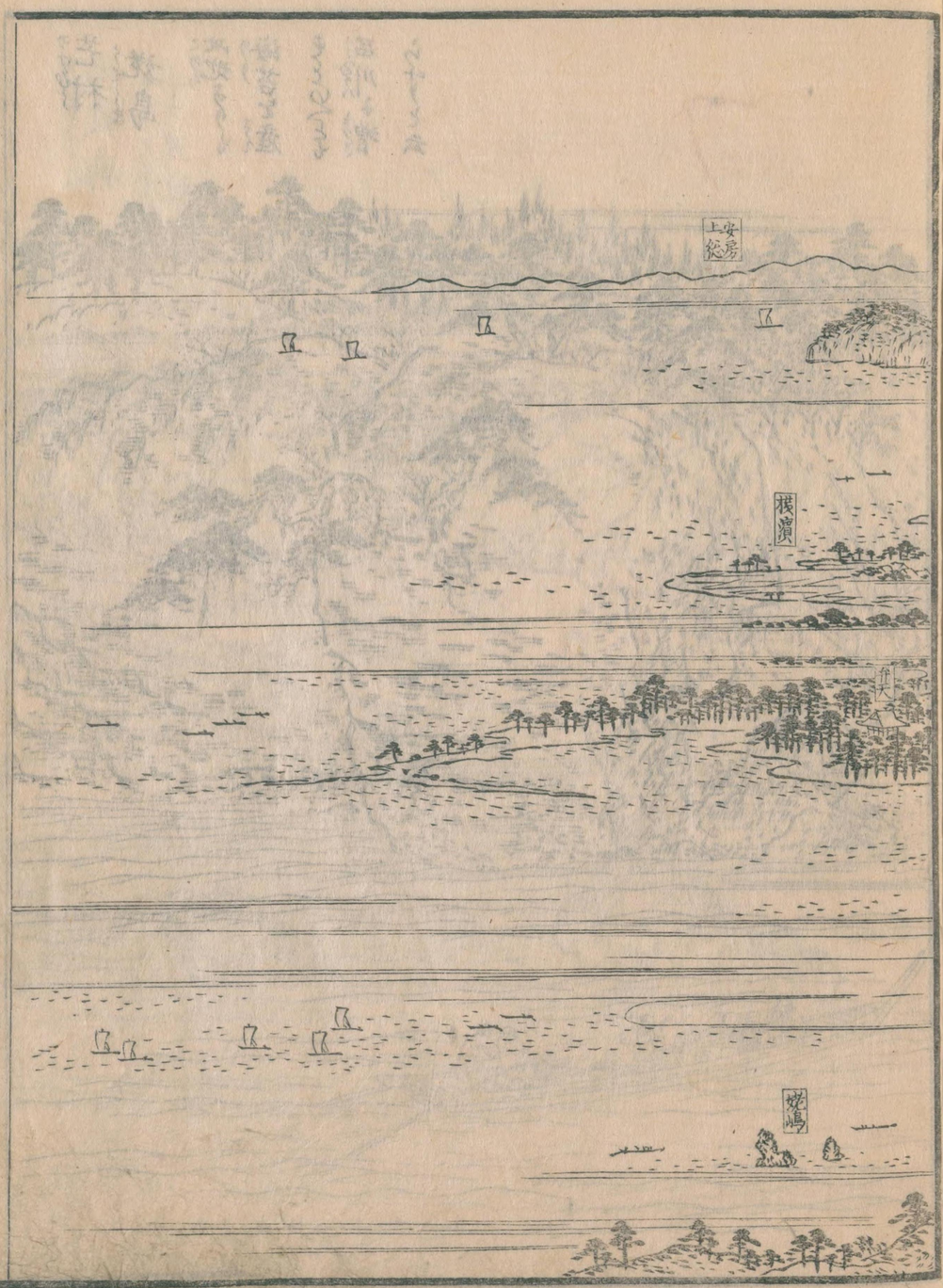
裏手ゟ聳立せるわの巨巖
蒼とゝく栄茂せる
吾妻明神社　同所六町斗南の方原宿といふあり相傳よ
天和年間此地の獵人吉左夫と
當社の神躰を得ゝて
營建せゝく云此神躰ハもと南總木更津吾妻明神の神
像ゆゑく浪よ漂ひ此地よ止ゑものよ祭神ハ人皇十一代
垂仁天皇の皇子日本武尊初の御名ゑは小碓命とゝ奉る
武藏相模の際ゑ尊の東征御經過の地ゝゑ以て所々ゝ

小林藏書

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

横濱辨財天社





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

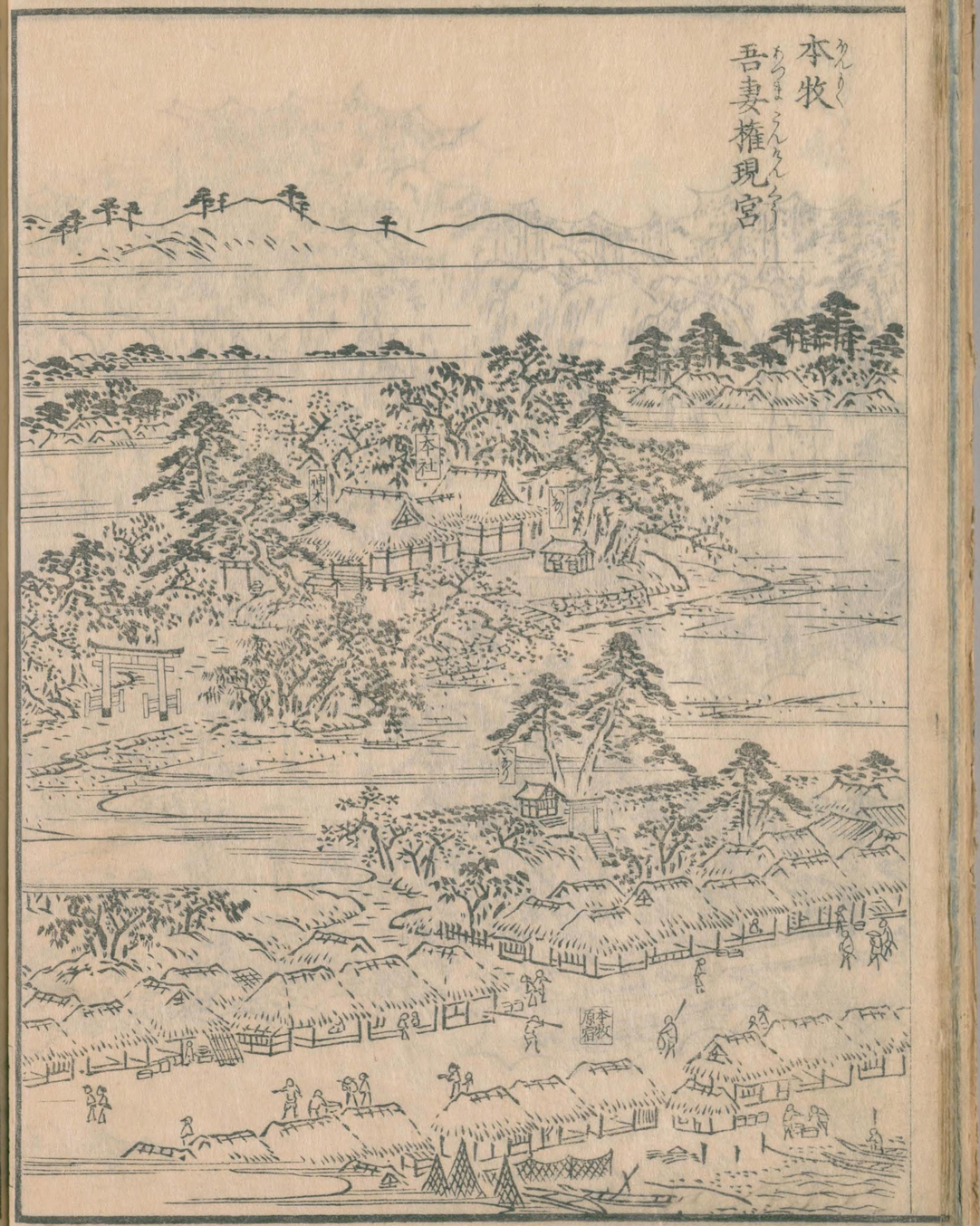
芝村
兢島
此地よりも海苔を産
もとのごとも
呂川より増
らすと云

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

ろんもくのたか
本牧塙
ちゃうてんのやしろ
十二天社

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



本牧（かんりく）
吾妻権現宮（あづまごんげんのみや）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

本牧の地ハ神奈川澤の南に續きて海上ふ鋭出して一方の系地ふして勝區ぶ撰る人あり取とをあふ取とえんくり按ぶるふ本牧の名ハ昔時牧馬の地なるゆゑふこの称ありしるりのをえ今ハ海利魚鹽の郷とあり漁人の家多くあふ魚をうれて東海の澤路及び東都ゟ市ゆえ輸り鬻ぐるべし

奉祀して千歳御神威を仰き奉るも鎮護國家の盛功末代ゟ及ぶの故あるへし詳なる事ハ本所吾嬬森の下ゟ出るゆゑこゝに畧せり

杉山神社　新町ゟ八町あまり北の方下星川村ゟあり延喜式内の神社ゆゑく靈蹤尤掲然ゟり今ハ日蓮宗法性寺と稱し兼帯奉祀しく釋迦如来を本地佛とゟり例祭ハ毎年六月十四日ゟ修行也

延喜式神名帳曰　都築郡一座小

杉山神社

續日本後紀第七日　兼和五年二月庚戌武蔵國都築郡杉山神社預之

官幣以靈驗

同書曰　同十五年五月庚辰奉授武蔵國无位杉山名神從五位下

按ふ刊本の續日本後紀ふ杉山ゟ作るハ誤なり

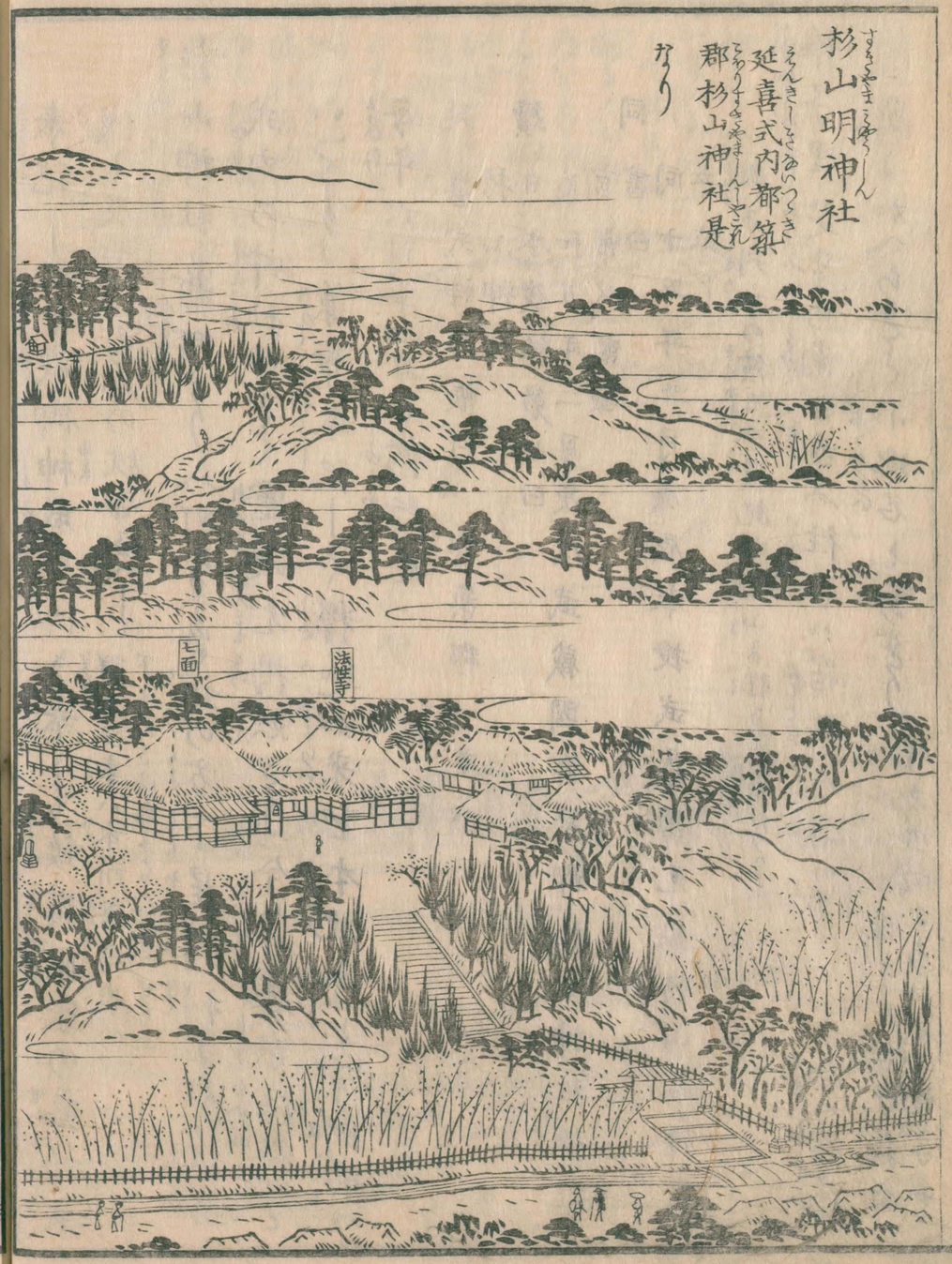
唯子里　芝生の南ゟ並ゟ往古ハ宿驛の名なりしゟ今ハ程ヶ谷驛ゟ加へらるゝ小地名とあり

此所ゟ下唯子と名け岩間神戸の南ゟあるを上唯子ゟ

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

杉山明神社

延喜式内都筑郡杉山神社是なり



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

称ふ寛永五年齊藤徳元の関東下向記ニ所の人ハ此里の名のそれを尋ねまほしき浦のうら辺ハ海辺ありあり浦のうら名付けまほしく名付けまほしく侍りしと記せり

平安紀行　かくもかくと名つくる所ゆゑ

日ぐらしの里

田園雑記　道興准后

鎌倉記行　この里のうらうらなれど入江のうらうらの里ときくハ

地白砂の名のハいかゞむかしの里　澤庵

帷子川　下帷子の南新町驛舎の入口を流る　川幅十五間此流

ハ架を板橋を帷子橋と号く此川ハ同國都築郡白根の辺より出ル此地ハ久良岐郡戸部村より経く

海ハ會を

程ケ谷新町　東海道官驛の一なり　帷子町上下岩間町上下神戸町上下の地を合せて一驛とせり

或ハ慶長或ハ慶安（貞享慶安二年又ハ万治年間ともその一説ハ衆家の分限帳ハ三郎と云人の所領ハ小机の保土ケ谷とあるハ此地を背ハ小机より届しとおぼし）

神奈川より此地迄弐程二里九町あり　驛亭軒を連ね繁昌の地なり

神戸川　神戸と上帷子との間の小川ゆく長二間ほど板橋を架しゆく（神戸橋と号く主人ハ中のゝと称せり）水源ハ田間の水落集りて流ゞまし此地より至て未ハ神戸岩間の左の裏を回りゆく帷子川へ入

新町より右の裏を流ゞまし此地より至て未ハ神戸岩

大神宮　神戸の地ゆあり街道の右側ゆ鳥居を建て大門三丁あまりを入ゆく社あり神主岡田氏奉祀ゆ祭礼ハ六月九月両月の十六日中ゆく九月を大祭の辰ゝを相伝ふ往古當社の御神武州御厨庄榛谷峯ゆ影向なりしを後世川井二股川程ケ谷宮林同所八坂等の地へ迁しまゐらせしより神詫あるを以て終ゆ嘉禄二年九月十六日

此是武藏帷子郵
別家十日經十州
只思父母不姑舍
夜々夢魂鄉里遊
闇齋

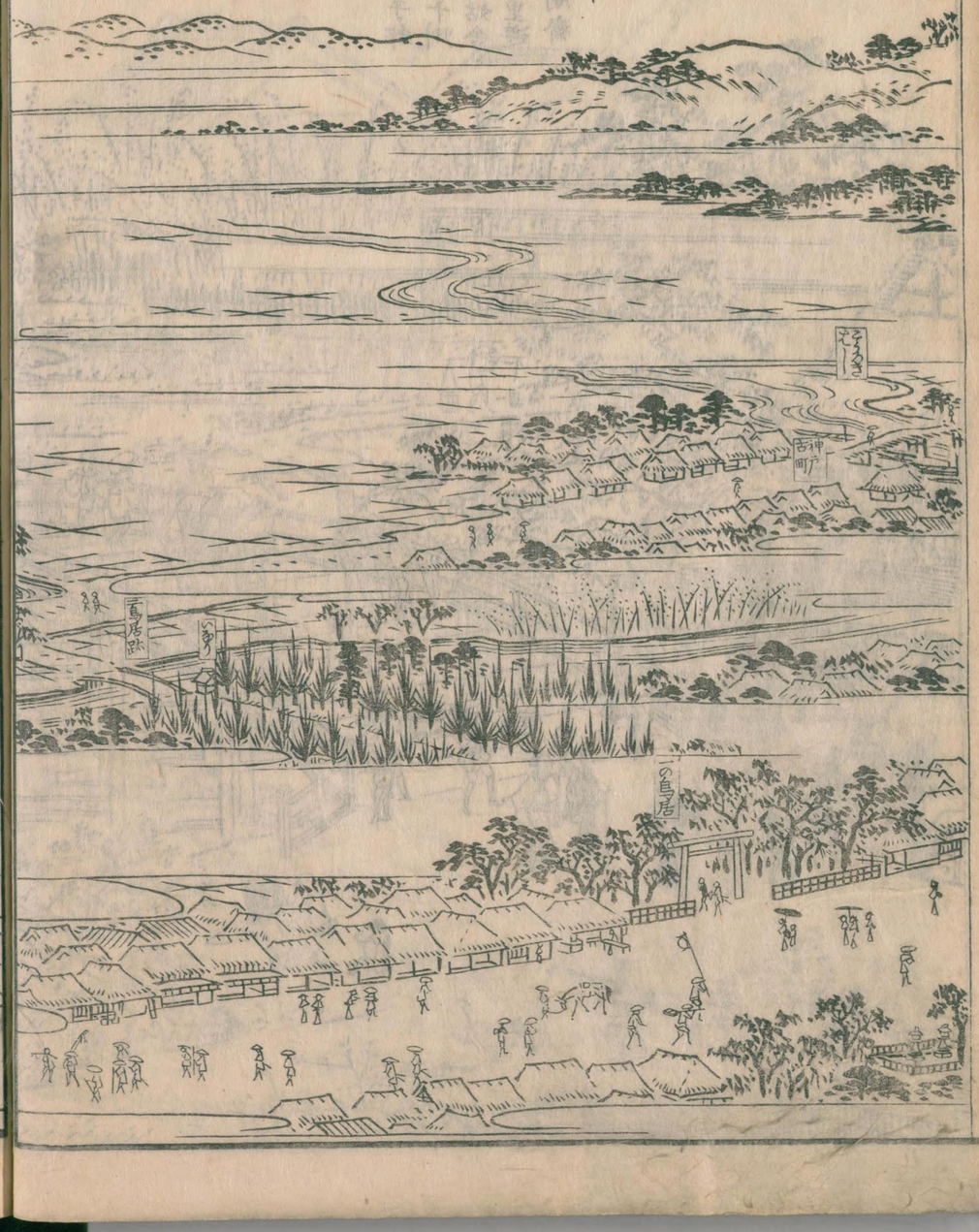
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

惟子里
神戸村
神明宮

平安記行
かくれなき
名をも恥ぬる
旅人の
汗もかわる
かくれの里

持資



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

境木

土人の称なり

武蔵相模の境ある故よ

傍らに

杭を建

らるる故ゟ

此名あり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

科濃坂
権太坂
とも云

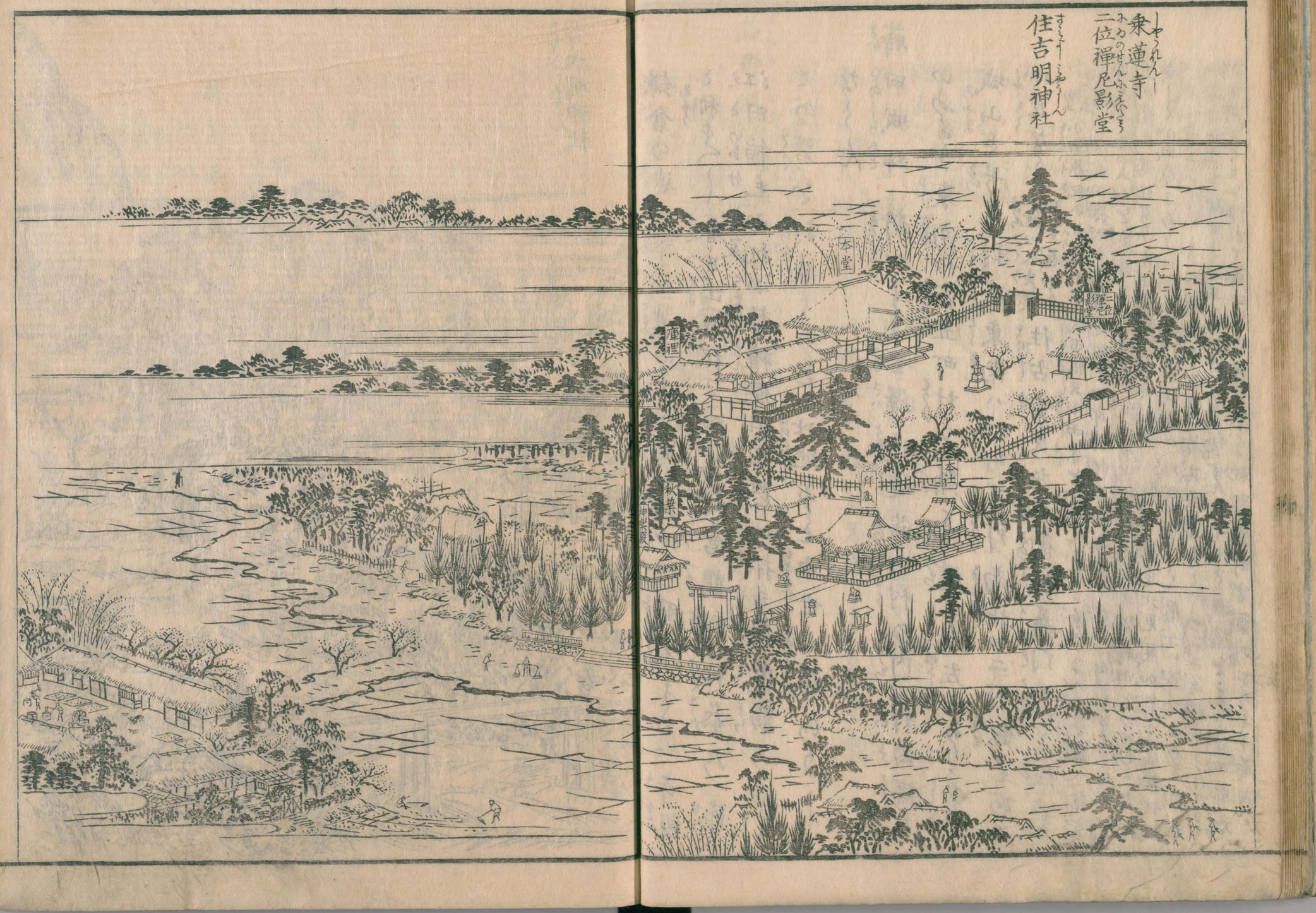
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

此山上より迂〻して又元和二年三月三日今のやく平地へ
宮居を造立をと云　見目町神田春日町天神町等の地より
古町街道　芝生の追分より下　惟子の右の裏通りを程ヶ谷の
元町へ出る通路ゆ〻く行程十八町そこもあり則古の街道
なり万治二年或ハ慶長或ハ　今のやく通路を改られしより裏
通りを古町街道と称し〻今の驛舎を新町とも名〻なり
惟子橋　造替の節ハ此古町
街道を往還の通路とも
界木　立場ゆ〻く道より右へ武蔵相模の國界の傍示杭
建る所ふ此称あり此地牡丹餅を名産とも是を製る店
両三家あり
品野坂或ハ信濃又　俗ふ権太坂と唱ふ此地ハ武相の國界なり
料野より作る
坂路の両傍ふ蒼松の老樹左右よ森列〻も坂上ゆく
右を望めハ芙蓉の白峯玉をけつるがごく左を顧れそ
鎌倉の遠山翠黛濃ゆ〻く実よ此地の風光ま〻一奇観
と称す〻春日山日記よ謙信鎌倉鶴岡社参乃節
江田稲毛小机小杉権現山品野坂抔云海道筋さ〻ゆ
この路を討取とあるハ此地ゆ〻中世小塁ひとりし
なり〻ん
蒔田城跡　新町より金澤通道　蒔田村の内蒔田橋と
いふより東南の方五町計を隔て道より左よあり土人ハ
城山と号く封域東南ハ一町余北ハ二町餘をひる
小丘なり　南北ハ小田原記ふ永禄十年武田信玄小田原を襲んともる条下よ八王子筋へ信玄
と云の歟武田孫八入道遊軒と四郎勝頼発向あり小机へハ此地ハ久良岐郡よ属せり往古吉良
左兵衛佐義門此地よ住す
神大寺と山を隔ゆ〻この辺ハ蒔田と云所よ吉良
左兵衛佐居住なり　左兵衛佐ハ其頃大
と云ハ小田原記ふ小田原を襲んともる条下よ八王子筋へ信玄
と云の歟武田孫八入道遊軒と四郎勝頼発向あり小机へハ此地ハ久良岐郡よ属せり往古吉良
左兵衛佐義門此地よ住す
神大寺と山を隔ゆ〻この辺ハ蒔田と云所よ吉良
左兵衛佐居住なり　左兵衛佐ハ其頃大
具しく小田原よあり此吉良ハ上杉氏廉
人数もものれハとく多目周防守ら
山城守康忠北見閑加賀守満頼抔相
妻女ハ蒔田よあり抔節
の妹聟ゆ〻く
其頃青木と
此地ハ久良岐郡よ属せり往古吉良左兵衛佐義門此地よ住す
神大寺と山を隔ゆ〻この辺ハ蒔田と云所よ吉良
左兵衛佐居住なり　左兵衛佐ハ其頃大
具しく小田原よあり此吉良ハ上杉氏廉
人数もものれハとく多目周防守ら
山城守康忠北見閑加賀守満頼抔相
妻女ハ蒔田よあり抔節
の妹聟ゆ〻く
其頃青木と
条下よ八王子筋へ信玄
吉良
朝
時田
とも
云所
庁倉
居住
栗田藤巻
我構をそそ
栗田藤巻
我構をそそ
妻女の宅を焼せく
妻女の宅を焼せく
ハ生
ハ生
捕云同心ともを連れて蒔田を守護し
捕云同心ともを連れて蒔田を守護し
軽部豊前守泰則をりふし蒔田ま

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

乗蓮寺 二位禅尼影堂 住吉明神社



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

青木明神社

ありしころハ谷吉良のやしきの前なる山おのおのありて鐘燈をあらけ後れハ敵を
来らさとあり

二位禪尼影堂　井戸ヶ谷村乘蓮寺とあり　西光山と号し古義真言宗石川宝生寺末に属す
本尊不動なり慶安二年朱印地ハ禪尼分領の地ゆゑ尼公の生前自影堂　尼公の肖像ハ
座像にして等身なり四十計の尼ゆゑ髪を剃り右の御念珠を持しゆゑよ
兵乱の為め破壊せしを秀誉法印勧進の功を募り寛永
十年癸酉影堂を再興せしとの
書ける牌あり二位尼
平政子の牌ありとの
の銘ハ詳なる
ものハ梁牌　鎌倉志ハ亀谷の壽福寺ハ如實妙観と
其文左のやう

梁牌銘曰

二位尼者北條四郎時政卿息女則右大將家北方
頼家實朝両公為慈母又二十六年經二日後逝去
嘉祿元乙酉年七月十三日卒法名如實世人号尼
将軍是也井土谷卿分領存日立影堂号
乘蓮寺雖然度々為兵乱破滅今秀誉法印廢
奉■他力令建立者也
辨■造立鎌倉二位尼御影堂一宇國土安全求願成

寛永十癸酉年三月十一日
大檀那開宮産次郎忠次
別當 衆蓮寺 秀誉

東鑑脱漏曰 嘉禄元年乙酉七月十日庚午丑刻
二位家薨御六十九歳是前右大将軍之後室二代
将軍母儀也前漢之呂后同而令執行天下給若又
神功皇后令再生令擁護我國皇基給敷云云
十二日辛未霽寅刻二位家御事有披露出家男女
済之云云
按ニ當寺梁札の銘ニ二位禅尼逝去の日を嘉禄元年七月十三日とを
東鑑脱漏七月十日とそ登とも欤

瑞應山弘明寺 金澤通道より十四丁北の方へ入る弘明寺村にあり 坂東順礼札所の第十四番目なり當寺も弘法大師開創の佛刹ゆゑ中興を光慧阿闍梨と号古義真言宗石川宝生寺末 毎年七月十日十二月十八日市立つく大に賑ハへり

東鑑曰 治承五年正月廿三日於武蔵國長尾寺并永明寺等者以曽我祐信奉行被実下畢

源家累代祈願所也云云

本堂本尊十一面觀世音菩薩 弘基大士一刀三禮ゆゑ彫造ありと云
佛龕背面銘曰 中興光慧阿闍梨注 荒木横削長六尺の立像ニ
荒木作表本有横削 長六尺丈十一面顕果地各行基示深旨也

天満宮 本堂の内右の厨櫃よりあやまて昔浪華の旅客某菅神の像一軀を
携へ来れを售んと欲せられとも価を求むなんを世宝とすと云寺主喜躍
しつゝ價と問ハ旅客笑つゝ云く我有縁の神像と置く辞し去る其夜中院前内大臣通茂公の御
夢に神と祈誓の次第委く告給ふ大に感應をこうむり當寺の鎮守と崇め此
神殿造営せりとそ

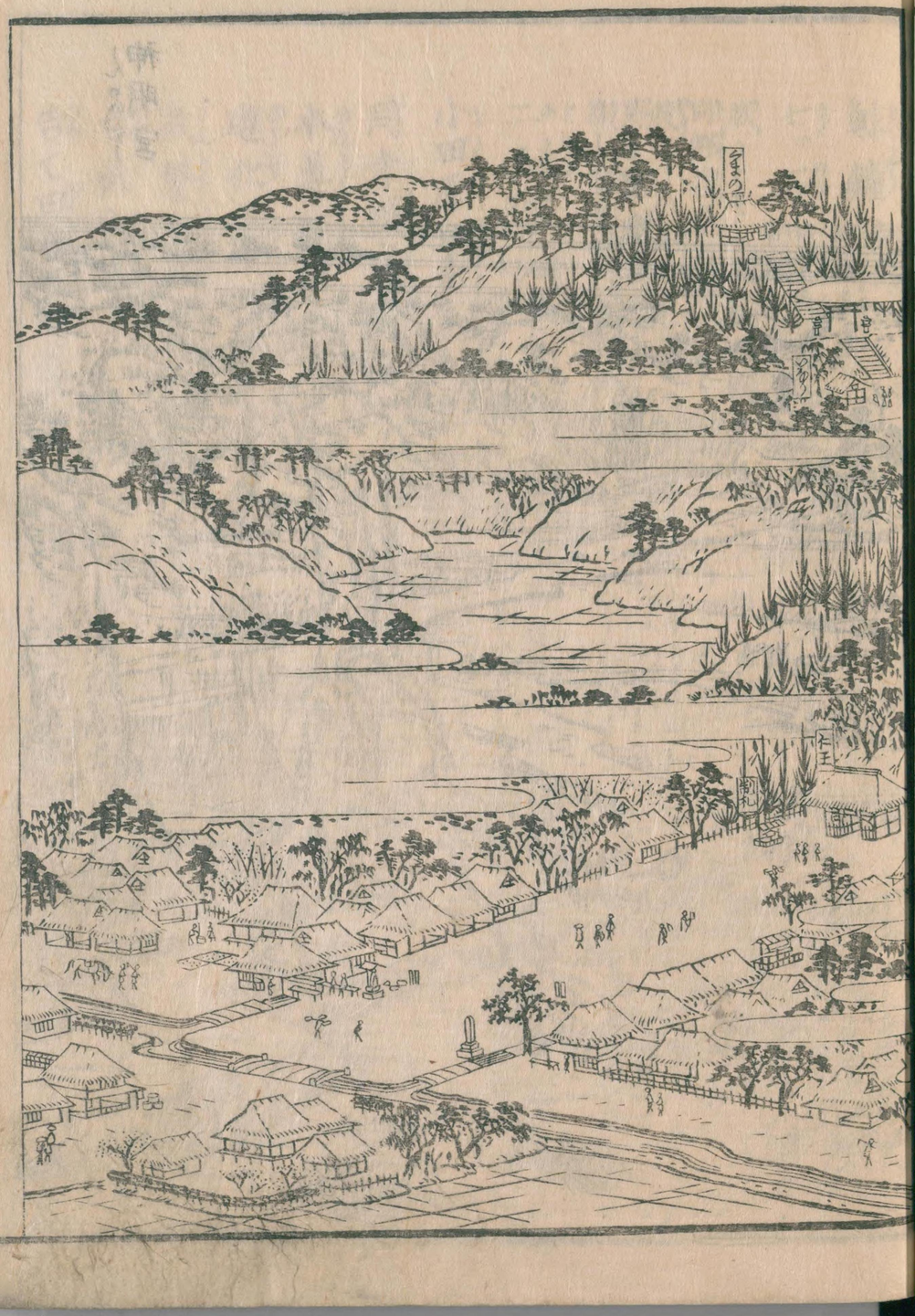
額 弘基山 瑞應山 弘明寺

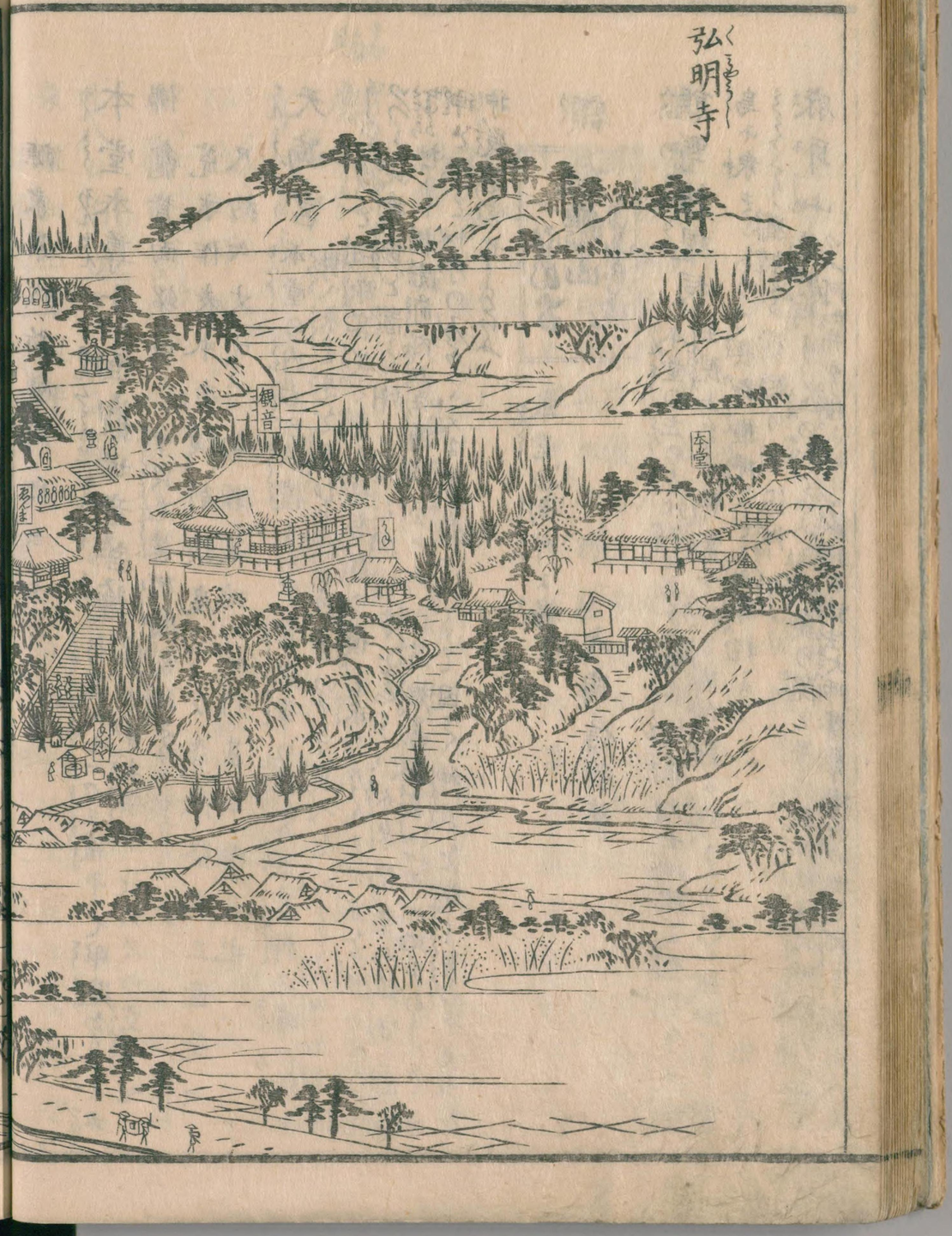
本堂の向拝に掲る

大角信勝筆

熊野権現祠 本堂の左の方に山あり往古行基大士此地に至るの時出現ありし神霊を祀る其白狐に跨りて熊野権現鳥に乗て熊野の下に降臨の由縁起ありと

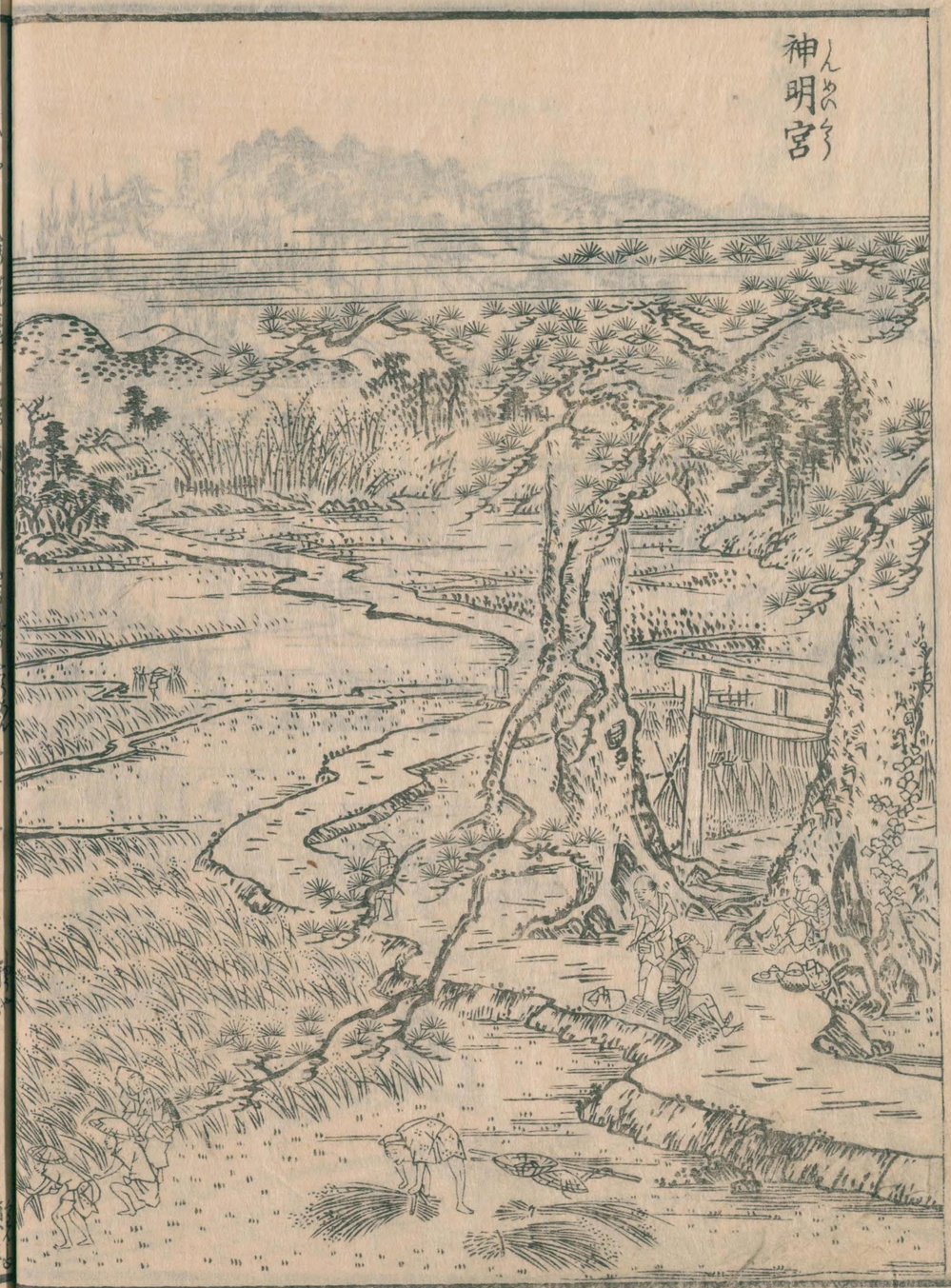
麻耳山 熊野祠より土の山土俗奥の院と号ク往古弘法大師勅許の地と弘法大師護摩壇の旧跡と称する処あり





国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用



堂前右の方坂の上よりあり田鐘ハ弘安九年九月廿五日鑄治のことのゆえて願主
法印長慶と云名を注せり今の鐘ハ寛政十年ニ改鑄せり

鯨鐘

七ツ石

神変奇異の霊石ゆえ自ら現れ自没る人恒よ其在所を知ることなし
若堂舎破壊よ及ひ修理のかをもってこの石現ると出り
然ハ材木金銭等涌くく輻輳ハ必ず不日よ工面の資財を調ふるの霊験あり
同郷檀家の庭中よりとかく果して明和三年造営の功を全くもらふ由
頻年御堂の再営を企つるとき當寺境内よ安き尚霊石の徳
當寺表門の前耕田の中よも一つありくく共ハ四つハ今猶現存す其餘の所在ハ未だ
存し當寺境内よ二つあり又観戸村とかくく此石今二王門の傍よ
見よ

二王門

石階の下よあり金剛密迹の両像ハ運慶の作ゆえ各九尺餘ありその
木像よ額よ瑞應山と筆しるせり

小田原北条家制札

永禄十年丁卯十月二日

同寺領寄附證文

石巻彦六郎まもとあり
天文二年癸巳二月十八日
石巻勘解由左衛門尉

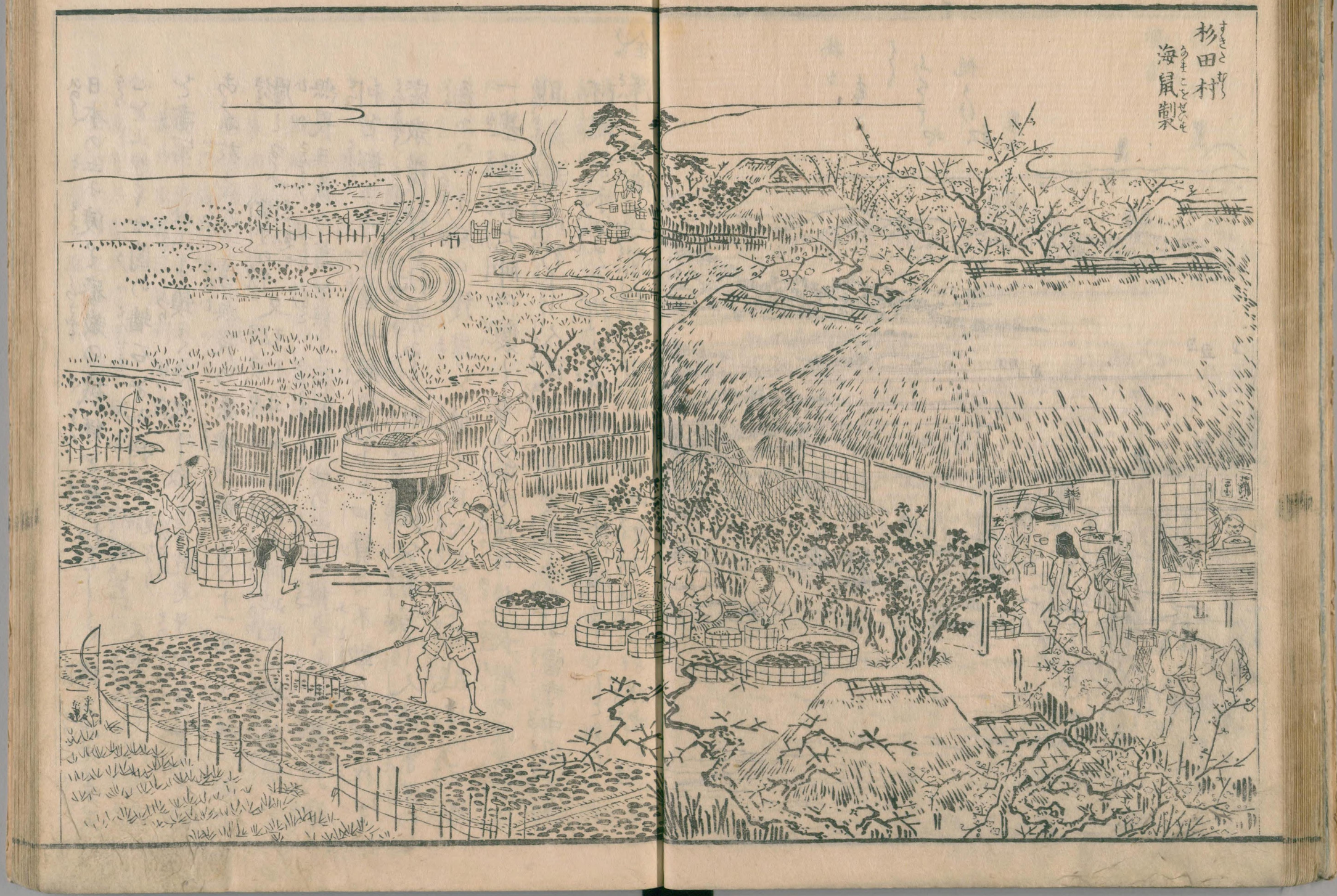
本尊縁起曰人皇四十五代 聖武天皇の御宇 行基大士東國
遊化の頃此地よ至りまふ空中よ白蓮乱飛くく山上よ
散隆を大士怪もて山よ登りまふ一ツの果くく神人のまふせり一ツ
白狐よ乗くく一ハ霊鳥よ乗せ境内よ鎮座の熊野稲荷等の両神現なり各大士よ
告て曰く去る養老年間印度の善無畏三蔵遠く我

杉田村
むめやしきの
梅園

梅うり
もとより
ふくるゝや
帆うけ船
蓼太

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

杉田村海鼠製



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

日本の土を渡て密教の機縁を要むとして終に此地に来て
心を止めて七箇の蟠石を加持して 碑碣七ツ石又其石に陀羅尼
を書寫し此山を鎮めて結界しぬと云て其方を
ふして於て大士善無畏の素懐を鑑て十一面の尊像一軀を
彫刻めて 當寺の本 又弘仁年間弘法大師此地に錫を飛し
無畏三蔵の蹤を継て大悲者胎浄
刹を翻めて伽藍安鎮のありさまを四臂の不動尊を作て
密教護神の法楽あり般若心経を書写して人法繁栄の
為ふハ一千座の護摩を修して且大黒愛染 乱 字の宝塔
一基是皆大師の製して遺の後長暦の頃武相の
間疫癘流行して人民大に是を患ふ時に當寺中興光慧
阿闍梨本尊に祈て此疫災を除滅せんことを云く
此地ハ六浦荘の内なり吉田兼好法師も此地に住れ
金澤

こゝしるす家集よそゝり竟恵法師の北國紀行にも神興
絶妙の勝地なりと称せられ往古巨勢金岡此地の勝
景を摸して畫むとして及ず筆を投て嘆賞を大明
心越禅師ハ其佳景西湖に似たりと詠の詩賦あり

洲崎晴嵐　浴々驟浪斂餘暉滾々狂波遠竹扉市後日斜人
靜悄行雲流水自依依狂波遠竹扉市後日斜人
瀬戸秋月　清瀬消々不繫舟風傳虚籟中秋廣寒桂子香
飄處共看氷輪島際浮
暮雨凄涼夢亦驚甘泉洞々聽分明蓬窓淹蹇無
小泉夜雨　聽腸断君山鐵笛聲
朝雲宗萬汎遠連天無慈軽帆掛日遶款乃高歌落
外依稀數艘到洲前
風生悟一片落雁迷蘆成覚地華鐘晩扣木
晩鐘　稱名藍

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

能見堂
鄭筆松

此所より
金澤の勝
景を平臨
する圖ハ次ニ
挙ケり

涼しさや
折ふしと
ハ
筆
擲
松

西山
宗因

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

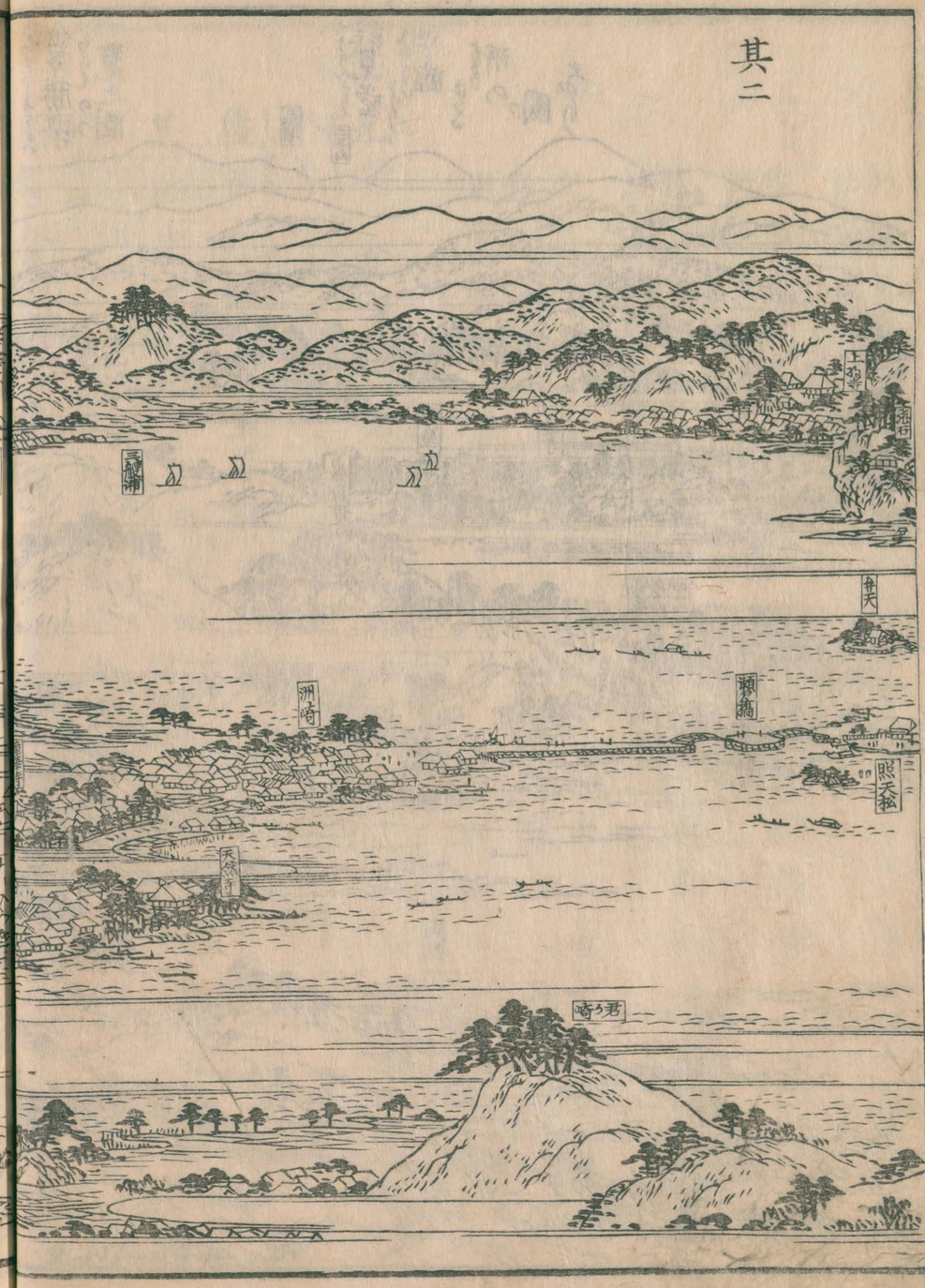
ガラス使用

金澤勝槩一覧之圖

能見堂平臨より所の圖

列陣冲冥堪入塞荻蘆蕭瑟幾成隊飛鳴宿食倦
棲進千里傳書誰不愛
廣陽長堤競晩雪内川暮雪
河色遍覆尨峯露些夫
野島夕照沒潜奇北六出以鋪縑渾然王砌山
獨羨漁翁是作家持竿盪槳日西斜綱得魚來沽
酒披簑高臥仕堪誇
武州金澤鄉筆山能見堂有溝抱八景之風味因觀
鎌倉志甚詳一夕寥々對青燈漫賦八景之陋句以
識斯勝境云歳執徐夏日
東皐越杜多艸

能見堂　金澤稱名寺の艮の山上にあり
本尊の地蔵并ハ恵心僧都の作やして一寸八分有りと云
後世立像二尺五寸計の地蔵菩薩を作るなり靈像をハ
其胎中にこめたりと云故よし此草庵を地蔵院と号く
近世久世和州侯源廣之建立あり玲の堂宇ハ
能見堂の二ツの額も共に心越禅師の書なり
巨勢金岡なるもの其真景を写さんとて筆を及ハさるに



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

以絶倒ふのつけん堂と云
堂ゟ作る或人云此地より望めハ瀬戸の八勝まて皆能見
ゆる故ゟ能見道と云とも
澤庵和尚のゟ記ゟ能見堂の松と云ゟ立よりく金澤をえ下せえ
詞ゟ及くこと記されくる地蔵
くりく能化堂ゟハ作られ
そとあり
擲筆松 堂前ゟ存る赤の大松をの
及ひくくこの樹下ゟ筆を投しくるとこの号ありとそ

梅花無盡蔵 出金澤七八里許攀最高頂則山々
水々面々之佳致昔畫師金岡絶例擲筆之處有
名無基但其名不甚佳相傳曰濃見堂也中畧
云畫師擲筆之峯云 又

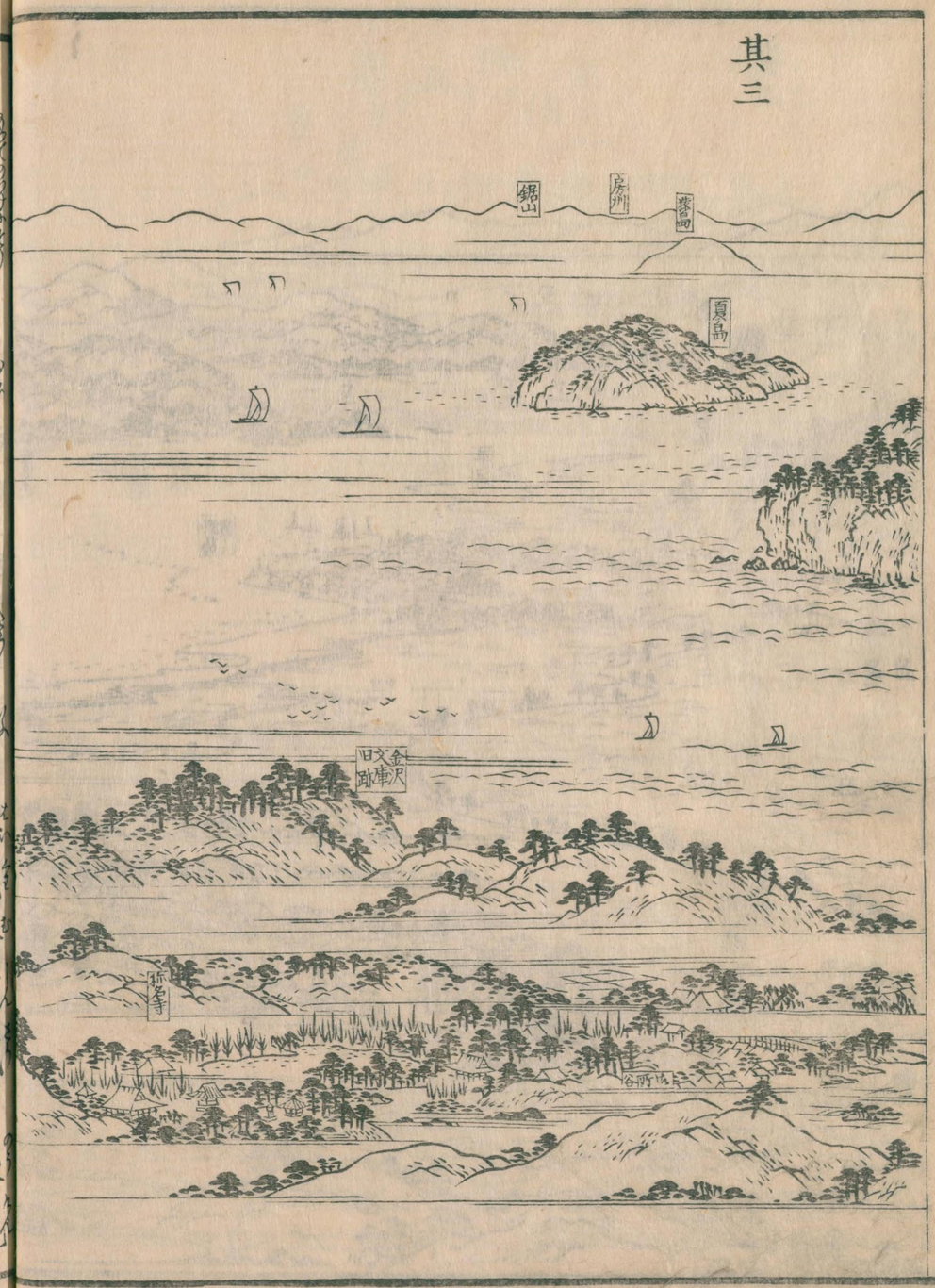
登々甸圃路攀高 景集大成忘却勞
秀水奇山雲不裏 畫師絶例擲秋毫

萬里居士

淨土寺ゟハと筆捨松 西山宗因

此地ゟ至くく金澤の勝景を望めハ畫ゟ如く南ゟり西

其三



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

北よめうりくハ皆山ゆ〳〵く東ハ滄溟よ連〻千里の風光
窮りなく沖行舟の真帆片帆ハ雲ゐ入うとあや〳〵ほる
瀬戸の神祠ハ水よ臨ミ称名の佛閣ハ山ゐ傍うり漁家
民屋ハ樹間〳〵ゑ〻かくしこ〳〵島嶼ハ波間〳〵にあり
又鰶戸の烟潮水の盈虚もまた和ゆ〳〵く一瞬よ遷〻一日早晩の異なる一年春夏
秋冬の変まる千態万状極りなく閑左の一勝地ゆ〳〵く
あるも松島象潟の風致あるを以雅客遊人留連時を
移せをりくとも其十ろ一を究る能ハず
金澤山稱名寺　町屋村よあり弥勒院と号に真言律にし〳〵く
南都の西大寺よ属せ當寺ハ鎌倉亀山帝の勅願所ゆ〳〵ゑ〻
北条越後守平實時の本願其子顕時の建立なり　實時を稱名寺と
号け又法名を正慧といひ此地よ居住せ〳〵ゑ〻顕時より金澤を家号とを顕時
法名と慧日と号せ霊牌ゐ弘安三年三月二十八日に卒せりと
小田原北条家分限帳よ金澤稱名寺領金澤
壽王呼領の内よ金澤稱名寺分とあり
愛染堂　本堂の西よあり本尊ハ軍荼利夜叉
大結界の図よ三重塔と注しるも道具進后の画図雑記よ稱名寺
律院さくことの外なる古寺ゐく蘆ゐ
行〳〵ゑ〻三重の塔婆よまうり如ゑ
へし又澤庵和尚の鎌倉記行ゐも本堂一宇あり諸堂皆跡
塔も一重よまうり如ゑとあるも此塔の事なるべし
本堂の東よあり其銘ゐ云く

鐘樓

大日本國武州六浦莊稱名寺鐘銘
降伏魔力怨除結盡無餘露地擊捷槌菩薩聞當集
諸欲聞法人度流生死海聞此妙響音盡當雲集此
諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅爲樂一切衆生
悉有佛性如来常住無変易一聽鐘聲當願衆生
斷三界苦頓證菩提

文永己巳仲冬七日奉爲先考先妣結縁人等同成
正覺鑄之

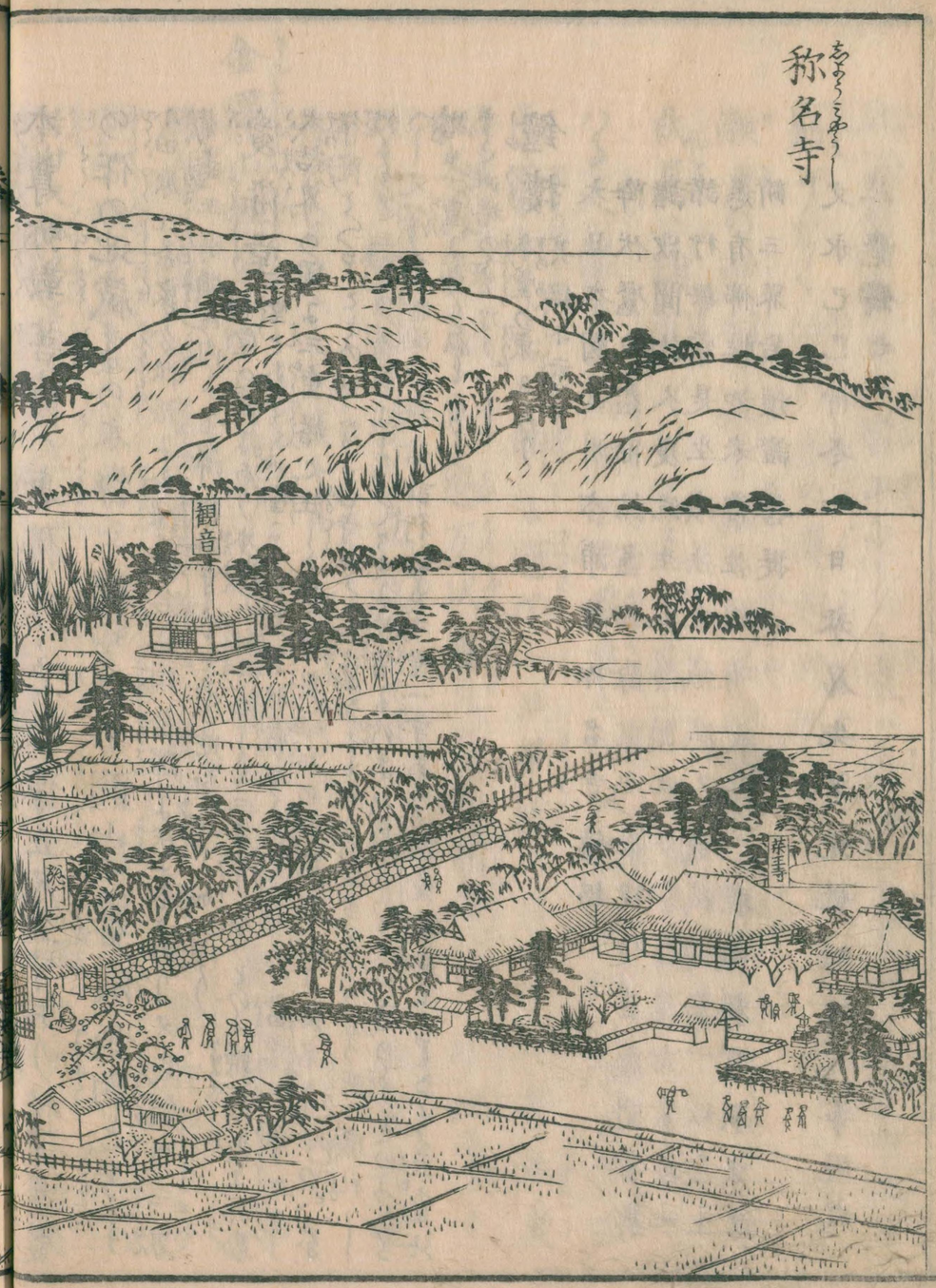
本尊弥勒菩薩ハ唐佛ゆ〳〵く立像五尺五寸あり傍ゐ運慶
の作の地蔵ゑの木像二軀を安せ開山ハ審海和尚と号す
小田原北条家分限帳よ金澤稱名寺領金澤
壽王呼領の内よ金澤稱名寺分とあり又氏綱の三男
愛染堂　本堂の西よあり本尊ハ軍荼利夜叉
大結界の図よ三重塔と注しるも道具進后の画図雑記よ稱名寺
律院さくことの外なる古寺ゐく蘆ゐ
行〳〵ゑ〻三重の塔婆よまうり如ゑ
へし又澤庵和尚の鎌倉記行ゐも本堂一宇あり諸堂皆跡
塔も一重よまうり如ゑとあるも此塔の事なるべし
本堂の東よあり其銘ゐ云く

鐘樓

大日本國武州六浦莊稱名寺鐘銘
降伏魔力怨除結盡無餘露地擊捷槌菩薩聞當集
諸欲聞法人度流生死海聞此妙響音盡當雲集此
諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅爲樂一切衆生
悉有佛性如来常住無変易一聽鐘聲當願衆生
斷三界苦頓證菩提

文永己巳仲冬七日奉爲先考先妣結縁人等同成
正覺鑄之

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

金澤顕時墓

金澤貞顕墓

大檀那越後守平朝臣實時亀ヶ谷禪尼

入宋沙弥圓種述

宋小比丘慈洪書

改鑄鐘銘并序

此鐘成乎文永癸酉乙亥歳募士女捨赤金重営青鑄而不可無鐘矣因勵微力并伏乞先考超越三有同徳於寶應聲遒遠十地並位光世音曁乎四生九類與千一種餘響洪鐘之起於其始歟焉載干周典称于竺篇質備九乳形象圓天聲之聞々入玄三界五趣八禪四定醒長夜夢之朝夕無愚無賢凡厥聽者同見金仙

正安辛丑仲秋九日

大檀那越後守平朝臣顕時

法名慧日當寺住持沙門審海行事比立源阿大工

和権守物部國光山城権守同依光

金澤顕時墓　當寺大檀那なり阿弥陀院後の山の中腹にあり

高さ七尺餘との五輪の石塔なり

同貞顕墓　同所にあり顕時の子なり五輪の石塔ハ高さも前ニ同し一程なり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

美女石姥石 池中嶋より西の方に在 金澤

四石と称する其一あり 舊樹八枯て今弱木を栽 其の

青葉楓樹 外堂の前鐘樓の傍よりあふぐ 金澤八木と称するもの一あり 諸書皆是を作

北國記行 室淳 落相卿の

つゝみ行一本ぬれ時雨もみぢ葉

東國記行 覺恵

秋ともいさまだふかぬ匂ひ哉

鎌倉記行 宗牧

世にふるもそのことの葉の昔ぞと

西湖梅 同 鐘樓の股よりあり 花ハ重辦ゆゝしく潔白なり

梅花無盡藏賦西湖梅詩序

丙午小春余入相州金澤而斯梅則支那之名産也乎之金閶朝未開之前一日招余賦之則於一枝面十余千余措飯夏余五月之間見盡腑巨梅有之西余船遊第一之奇觀湖主屬南東梅遊

六浦称名寺の住僧と
誠ゐ碁を圍ミ彼
寺の二王尊を
賭物とも
上人勝つ
それハ終ゐ
これを負て
甲州身延
山へ至られ
うしと云
大力無双の人
なり

前朝金澤古招提
掬有西湖指枝拜
全
一横枝上粘西湖
意外春風眞假合

遊十年遲蹤嘆腐
未開遺恨翠禽啼

名字斯花別不呼
傍人定道昼成圖

櫻梅 同所 花ハ重辨なり 普賢象 八木の一員なり
文珠櫻 同所 普賢象ゐ對し 一室 本堂の前左の脇なり 一品にしく
称なるへし 共ゐ八木の一なり 岩嶺齋の櫻品ゐもえそゝり
今ハ荒廃せり 澤庵和尚の鎌倉記 門に一の額を掲く
ゐ引ハ 寂寞無人 寛永乃
声のごとし 坐禪觀法の床を
頃も荒 阿弥陀院 本堂より左山の傍よ
称名寺のそ
運慶の作 此二像ハ杉田村 東禪寺 當寺
旧の二王尊ハ六浦の荒井平次郎 光吉家 日荷上人と号せし上人 或日
称名寺の住侶と碁を圍ミ二王を賭とも 終ゐ日荷上人勝 當寺の
二王の像を ぬく身延山ゐ迁され 二王門 樓門の左右よ安置せる
なりと称する五寸ゐりの玉を 所の金剛密迹の像を
熊野新宮 池の西岡の上ゐり
當寺の鎮守 寺寶 佛舍利 八祖相承の
國室生山ゐ納置ゐひしを 弘法大師大和
亀山帝の勅にゐり

當寺へ移し納めり昔ハ弥勒佛泥塑像長三寸座像ふしぞ勅封ありしと云亀山帝の作弘法大師の作ありと愛染明王金銅像古備丸の作ありと云請雨経瑜伽論共ニ菅丞相の真跡の瑜伽論ハ長二寸五分一行ニ二十五字あり此論ハ一部百巻紀州高野の金剛三昧院ニ一巻江州竹生島ニ一巻以上合せて八巻ハ今尚存鎌倉志ニハ其餘の二巻ハ所在未詳と載ふ其外古佛多く枚挙するに遑あらず

大界外相圖　元亨三年當寺結界の図なり其光景尤大廈高堂ニ古の繁昌を今ニ異なり其裏書の按ニ云

元亨三年癸亥二月廿四日　羯摩師極楽寺長老忍公大徳
答法　多宝寺長老俊海律師
唱相　湛睿

當寺本願越後守實時及ひ顯時貞時將軍の画像の

懸幅あり

楊貴妃玉簾一連　初尾州熱田よりありしを硝子の細き竿と色絲とを以て金澤称名律寺間西湖梅以来開烏

梅花無盡藏曰　遺恨矣珠簾猫兒支竺群書之目録無介者而不能

融目云云　亀山帝の勅ありて當寺ニ

註進　日称名寺水晶簾舊猫児之系十大将教友部書

盖先代野焉

又曰寺祕件々之物容易元使人看之也

道與
淮后

四國雜記　筈の長さ三尺四寸ひろさ四寸の竹の筒の中ニ水精の玉の如きものあり是ハ弘法大師の感得ありしと云ふ九花蜜ふ古の感緒今更ニ

北條陸奥守制札

金澤阿弥陀堂称名寺領數地并垣場等事

右於當所軍勢并甲乙人等不可致濫妨狼藉若於
令違犯輩者為被處罪科之旨注申交名状依仰
執達如件

康安二年五月廿四日　陸奥守

永享十一年称名寺須結解状

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

稱名寺領赤岩十四ヶ村御年貢錢永寛十結解状事

合八十貫文内

六十九貫六百文　寺納

八貫文　代官給

一貫文　徳妙衣料

八百文　夫領路錢 両度四人分 年貢運上時

三百文　今津問方酒直

三百文　六浦六郎方礼儀晉錢之時

已上八十貫文

右所勘定如件

永享十一年三月三日　政所憲意判

當寺ハ北条家繁昌の昔魏こゝる巨藍なりしとも物換り星移り堂宇多く破壊して今ハ山圍を古木僅に松杉梢をあらそひ常ハ鬱々たるに似たり

扁を掛ち座禪観法の床をもめぐるに似たり房宇ゑそひそろひ寂寞の

金澤文庫舊址　阿弥陀院の後の畠をよ　東野文集よ寺前の称也　土庫文庫の称也

冒と相傳北條越後守平顯時営建せる和漢の羣書を納め儒書ハ墨印佛書ハ朱印を用ひ印文ハ楷字ゆゑく竪よ金澤文庫の四字を注す　印章の摸形を

次よ後上杉安房守憲實執事ゑりし時再興せしとなり

其後ハ荒廃しく書籍散失せりと

清原の教隆よ群書治要を讀せる余ゑりも文選清原の師光ゑ左傳教隆ゑ　丙辰紀行ゑ越後守平頼顯ゑ此所

群書治要　春民要術律令義解本朝文粋續本朝文粋續日本紀をのこらひ其外人家よありしも一部とそのこらひ

のこりく今ハ金澤よありと云く東見記云金澤文庫の内よ左傳の巻本三十巻中原師光ゑ跋ありとゑり鎌倉志よ一切経も取ほしてうつう一切経の残りくとの弥勒堂よありと云

印面大サ共如ク圖

金澤文庫

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

金澤文庫址

称名寺ノ谷

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

鎌倉大草紙云武州金澤の学校ハ北条九代の繁昌ゟ
昔学問ありし旧跡なるを是ゟ今度彼文庫を再建
しく種く書籍を入置又上州ハ上杉ゟ分國ありゟれハ
足利ハ京并鎌倉の名字の地ゟく他ゟ異なり彼
足利の学校を建立しゟく種くの文書を異國より求め
納ゟる此足利の学校ハ上代養和六年ゟ小野篁上野
の國司ゟりし時建立の所同九年篁陸奥守ゟありそ
下向の時此ゟ学校を建ゟる由其旧跡ゟ今残ゟ
ゟるを應仁元年長尾景久ゟ沙汰とりく改所ゟり
今のゟゟ移ゟく建立しゟる近代の開山ハ快元とゆ禪
僧なり今度安房守公方ゟ名字掛の地ゟれハとく
学領を寄進しゟ弥書籍を納め学徒を憐愍をされハ
此頃ハ諸國大にゟ学道色
一所の学校とゆゟる是ゟ
諸國の人をはゟめゟるハ
集ゟると云く

観金澤藏書而作

玉帳修文講武餘
牙籤映日窺蝌斗
圯上一編看不足
照心古教君家有

遺人来覓奮藏書
縹帙衆晴走蠹魚
鄭侯三万欲何如
收在胸中壓五車

慕景集

二月雨菜金澤の文庫ゟく移ゟる三ヶ
日向ゟる勝元の許ゟりとゟれゟる隣家梅花
ゟくゟゟ遣しゟる

ゟゟゟ

此帝勝地佳境へ遊歴の
詣紀よ見えすと
雖好法師閑居旧跡其地今
雖好家集武蔵国
あれとも

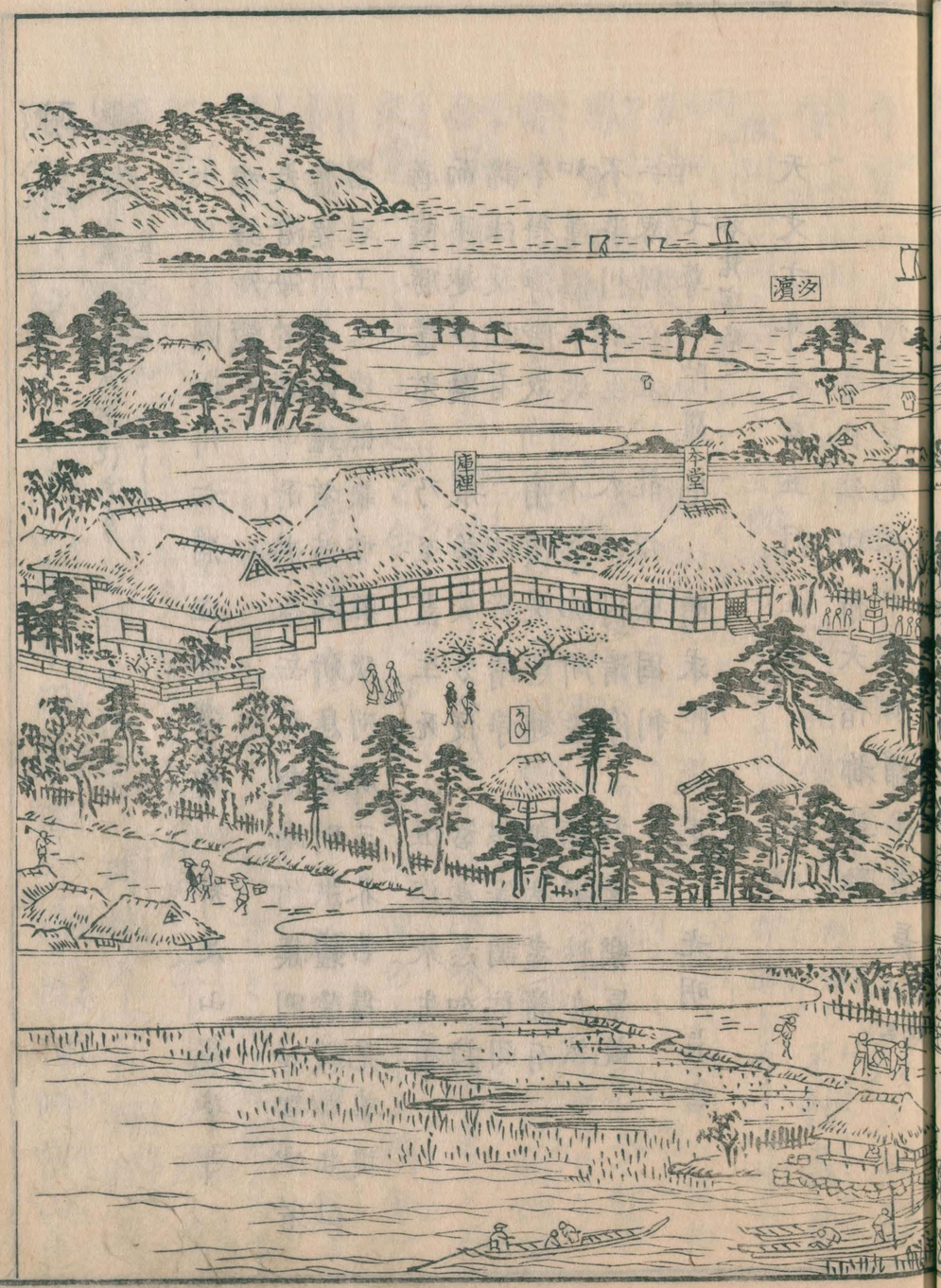
古郷の
薬王寺三療山と号し称名寺
真言宗にて龍華寺よ属を本寺ハ胎蔵界の大日如来
にて座像三尺斗あり当寺よ蒲御曹司範頼卿乃
霊牌あり表小大寧寺道悟裏よ天文九年庚子六月
十三日と記しる由鎌倉志よ出るとあれとも今その牌
ハなきなり

薬師堂本堂の前右の方よあり廊を
次の室ハ大寧寺の末寺を勤き当寺を開創しく薬王寺や
深く龕裡よ秘安しくくるふ人なし
手洗
当寺旧ハ薬師寺と号を室ハ大寧寺是より範頼卿
其法号を撫しく薬師寺を大寧寺と改むと云ふその頃比
丘尼薬師寺の号の廃せんを歎き

天然寺法爾山と号を同所薬王寺より九丁ありて隔
て瀬戸街道より野島へ彩道の左側よあり浄土宗り
鎌倉の光明寺よ属せり本尊阿弥陀如来の木仏ハ
座像にて一尺五寸計あり作者未考へ開山も然詳
禅方和尚と号永禄二年二月二十六日よ寂せしと
等の畫る佛像四五幅あり寺宝よ弘法大師及ひ恵心僧都

龍華寺知足山弥勒院と号天然寺より五六町南の方瀬戸
街道洲崎村と町屋村の間道より左側よあり古義の
真言宗の檀林にて御室仁和寺の末へ
本尊大日如来ハ座像二尺餘り右よ弥勒佛の木像を安
す共よ作者を志しく左よ安置の不動尊を行基大士の
作にて立像二尺斗太田道灌入道寄附せしと云開山も法印

町屋村
龍華寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

融辨と号
鐘樓　堂前左の方にあり
其文左のごとし

大日本國武州六浦庄金澤鄉　知足山龍華寺
唱鐘知識文
夫滄海者鱗甲所潛泰岳者翔蹄所集則知智池者
念塵所浴靈鐘者苦類所息然則洪鐘隆鼓焉非但
留毘王之望劒兼亦魃灰河脫三界苦得見菩提
菩薩勝慧者乃至盡生死恒作衆生利
而不趣涅槃者般若及方便悉加持
諸法及諸有一切皆清淨徳等調世間
令得淨除故有頂及悪趣悉令調伏盡諸有
如蓮體本潔不爲垢所染諸徳性亦然
不染利群生大欲得清淨大安樂冨饒
界得自在能作堅固利
三七尊聽陀羅尼　隨求陀羅尼　光明眞言
各梵字略之

天文十年辛丑五月五日　當寺住法印權大僧都善融
檀那古尾谷中務少輔平重長　法名道傳

寺寶両界曼荼羅幅　涅槃像
像一幅弘法大師或ハ頼行筆若詳
の筆ともいふ　十三佛繪像一幅中將姫の不動畫像
一幅弘法大師の筆なりと云　裏書ニ當家ニ於テ重修ス
天正年間　裏書ニ大田道灌奇進とあり　寺僧云く
五指量愛染明王像　弘法大師の持物
鳳凰頭二箇共ニ唐畫ゆゑ　八祖畫
龍頭一箇共ニ運慶の作と云　鈴
當寺ハ治承年間鎌倉右府頼朝公伊豆國三島明神を
金澤瀬戸の地ホ勸請あり　後法味を進むる為
文覺上人と共ニ志を合せ文治年間六連の山中ニ精舍を
創建せしも　彌勒菩薩の像を安置し　都卒の四十九院ニ
準擬し四方ニ六八の僧坊を建淨願寺と号庄園若干
を寄らる　當寺ハ往古弘法大師獲摩(ママ)ありし地にて弘法山と云又境内ニ
覺を並へ粉壁ハ月の光を移せる　伽藍ハ博敞にして丹柱も
星の林をなせり　然しより慶安二年ニ
後正嘉年間南都の恩性律師當山ホ

住し戒律を弘め弘長二年ゆゑ東寺の能禅法印當寺に於て灌頂を修行せるゝ印融僧都の附属ゝ依て光徳寺を兼帯せるゝ此寺も頼朝公の建立にして真言の霊區ゝ無量光院印融東遊の初此寺ゟ住親筆の書籍高野山文庫に充満然ゟ數度の兵乱ゟよりゝ両院の領地も他ゟ奪ゐ大に荒廃せるを明應八年融辨師大永四年甲申八月朔日歳八十二歳深く是を愁へ本尊の冥助を頼れしゟ菅原朝臣中務丞資方力を合せ伽藍再興を企むるす時ゟ本尊弥勤大士夢中辨師に告ありく是より艮ゟ當ゝ末世有縁の勝區あり彼所ゟ移しく三密の法燈を挑へしと夢覚ゝ後ゟ之を窺ゐるゟ竜燈の奇瑞あり洲崎村の境なる松ある竜燈の松と号ゝ今ゟ枯本尊の霊尓ゟ任せ此地ゟ至ゐ二町四方ゟ結界し兼帯ゐる和の浄願寺光徳寺両院の僧坊を合せゝ一寺ゐるし後土御門院の勅を奉ゝ知足山龍華寺と号師資相傳の本ゐる聖教を納めゝ善融法印ゟ附属を受天文十二年古尾谷中務少輔平重長を檀越ゐし洪鐘を改鋳を後太田道灌不動尊の霊像を寄附し武運延長を祈ゐ追福を求らる天正十九年當院亮恵僧正を請しゝ傳法灌頂を受享禄五年ゟ東寺の寶菩提院末子ゟしゝ龍王丸と号ゝ後師の徳を慕ひ浄願寺ゟ住世ゟ隠れなし依ゝ北条左京大夫永楽銭七貫文并柴村権現堂山を寄附ゐる其誉傳法御朱印を下しゐひしゟり四海泰平ゟ祈念怠ゐるゟなし

當寺ゟ真言古義檀林一宗の本寺ゆゑゝ金澤ゟ甲ゟ境内ゟを古木聳え覚樹の粧ひを示しゝ緑竹翠の色をなしゝ實相不変の容を顕ゐ海水左ゟ右ゟ湛ゝ朝烏夕兎の影を浮へ人家前後ゟ列ゝ山市漁村の観をなせり二十

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

浦の郷

猿島

夏島

鎌倉記行

夕なよ
よ
ま

烏帽子
為

沖より
あ
き

降菴和尚

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

有餘の未寺ハ林邑よ散在しく年くの法會月くの勤修恒例よ任せく怠るなく寶祚の長久武運の萬歳祈るなる曉の振鈴の声ハ無明煩悩の眠を覚し夕ぬ梵鐘のくきこゑ三途の迷夢を破る實よ江南の一精舎善應寺野島山と号く同所より半道斗を塩濱を隔て南の方野島よ傍てあり真言古義の龍華寺よ屬せ本尊不動明王の像も作者をあらそ観音の木像ハ立像二尺斗あまく聖徳太子の作なり愛染明王ハ座像一尺五寸斗なりて弘法大師の作と云此像の胎中よ篭らくとの千體を作と

野島同所東の出崎ゆーく瀬戸搆へハ二町間七八町あり土人百軒島とも云民家百軒より餘る時ハ必災あるかの百軒島と呼へりとの此所の出崎よ紀州亜相頼宣卿の山の出崎よ稲荷の小祠あるよ又中腹よ菅神の宮あり此地の北よ平方と盥風呂の奮地ありとく此地の東よ海濱を乙

鞆の浦と称せり

鎌倉記行

岩のあるよ

汀をいつくよ松も色く

為の秋を忘ひわせくわれなり 澤庵

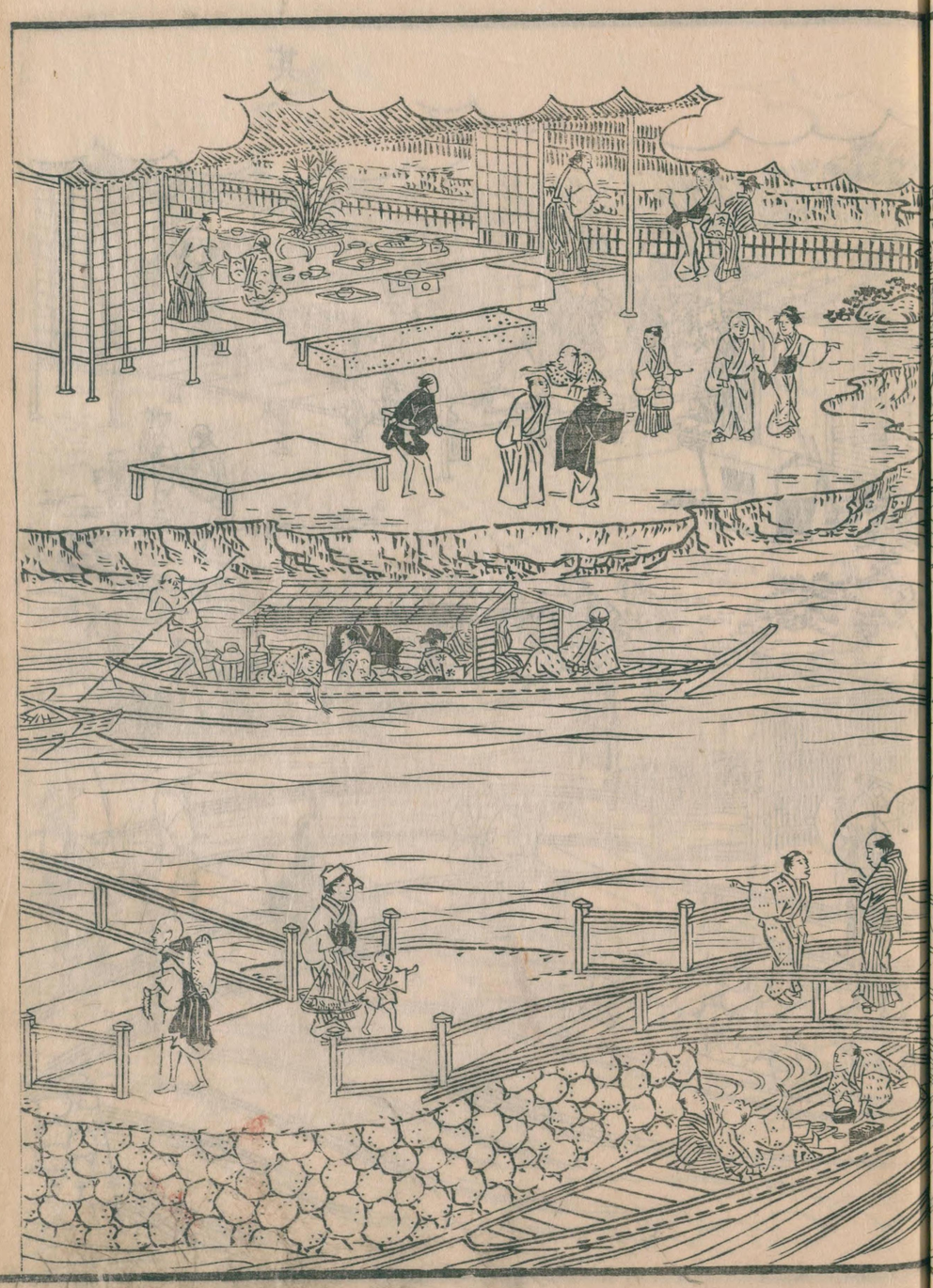
野島渡ー野島より南の方室木村へ入渡しめく舟路一町餘るあり江戸より浦賀への近道なり

洲崎野島の西瀬戸搆の東よ漁村を云鎌倉志よ云太平記及ひ鎌倉年中行事よの書よ洲崎とあるよ鎌倉山内の西よある洲崎村のゆーく此地ハあらひと又

瀬戸或ハ迫門よ作る

洲崎と引越村との間をの

四國雑記 瀬戸金澤とハ猪地のよ



瀬戸橋（せとばし）

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

旅亭
東屋

其二

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

瀬戸の浦より漕ぎあがりて瀬戸の汐合波ふかき

殘山ありなどもかゝれり

かゝれし瀬戸の海も漸々遠ざかり

全

瀬戸橋　同し入江より架を中間より臺を儲け橋杭を用ひす

しく長さ二間あまりなり橋二ツを渡しかくる

迫門の明神　古木黒く蘿より橋あり橋の下あり

潮さし入れハ遠き山の奥まで湖水となりて水鳥も降り

まとゐをそ水陸の景氣も朝夕ようり金岡も筆をよせり云々

照天姫松　同所北の方西の出崎より延寶庚申の大風ふ

吹おらるゝより辻一株の松の根株のみを存せり里諺に

云く照天姫姥のあぶ燻られしとて焼さしの松とぞ

いひつたふ

鎌倉大草紙云　應永三十年癸卯春ひとしの頃常陸國住人

小栗孫五郎平滿重と云者ありしく謀反を起し鎌倉ふ

背きされハ源持氏結城の城へ動座ありしく同八月

二日より小栗を攻らる終ふ小栗忍びく三州へ落行るゝ

とある条下ゟ云今度小栗忍びく三州へ落行其子

小次郎もそふ忍びく関東よりあるゝ相州權現堂

と云所へ行るゝを其邊の強盜を集りるゝ処に宿坂

かりされハ主のかハ此浪人を常州有徳仁の福者の由

聞く定しく随身の寶あるべし打殺しく取んと由

終合せ乍去健なる家人せあり何のせんと云一人ハ

盜賊かを酒ゟ毒を入呑せ殺せとのみ先と同し宿の

遊女せを集今様をと唄ハせ踊舞戯れるゝ彼小栗我

馳走の躰ふそ夜酌ゟ立々酒をもとめるゝを

照姫と云遊女此間小栗ゟ逢馴此ありしるを以

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

瀬戸明神社（せとみょうじん）

法身妙應本無方
三島不阻一封疆
山色涵波顕無跡
朝陽出海是和光
沢庵

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

祭神大山祇命一座　神主千葉氏奉祀を社傳ふ云

當社ハ右大将頼朝公治承四年四月八日豆州三島の御神を勸請なしまつりしより鎌倉年中行事ふを四月八日瀬戸三島大明神臨時の祭礼とあり或云往古此神此地へ飛

砂ふ立る照姫ハ酔ふる躰ふもそれとも卧れる本より

酒を呑さりければ水ふ流れ行川下よりそい上をたるより

る其後永享の頃小栗三州より来るく彼遊女を

出し種くの宝を与へ盗人共を尋皆誅罰しより

三州ふ代く居住をといへり

鎌倉大草紙ふ考ふるふ照天姫ハ照姫のふを云歟小栗の名を世ふ

萬氏と称もれとも同書小次郎とのみあり式ふ小栗系譜を考ふるふ孫五郎平満重ふ子助重とあり、もしくハ此小次郎ふ今世ふ云伝ふる而ハ俗称ふ異なりといへども尤證ともなく附會の説を備ふるのみ

自も此酒を呑をくありける小栗をあられこまれ

由を私言々く間小栗も呑様ふそふ酒を更ふ呑さり

ける家人共を初ふ何ふも酔伏てより小栗ハ夜初ふ出る

躰ふく林の有る間へ出くるを盗人共ハ林の内ふ鹿毛なる

馬を繋くく置より此馬ハ盗人共海道中へ出大名往

来の馬を盗ふ来られとも弁一のあふ馬ふく人をも馬

をも喰踏られハ盗人共不叶ふく小栗是をうらみ密ふ立帰ふ財宝少く取持て彼馬ふ

乗鞭をもあ為ふる小栗ハ無双の馬乗ふそ片時の

間ふ藤澤の道場へ駈行上人を頼られハ上人あふられを

侍衆二人付く三州へ送らる彼毒酒を呑々る家人并

遊女少く酔伏るを川水へ流し沈め財宝をを尋取

小栗をを乗なりともなりを盗人共ハを夜ふ分散を

来るもの土人僧へ云今金竜院の庭中に飛石と
按ずるに頼朝卿鎌倉へ入もうさるゝ上
此年四月八豆州の配所ヲ
乞不審
額 内陣ニ拘る
一位大山積神官
世尊寺後二位経尹卿筆
同額裏書曰
延慶四年辛亥四月廿六日戊辰書之
沙弥寂尹
看督長像
神主拘るとあり六浦社領
安阿弥の作と云今本社幣殿の内左右ニ置
近世里人粧飾を加へしよし依て古色を
鳥居額 瀬戸明神 神道長元二位卜部季兼卿筆
鐘楼 社前右の方にあり
銘文左のごとし
瀬戸三島社鐘銘
洪鐘新製寄器海嘯霊神
鎔體黄玄細素益大村里
驟化世俗頻敲夜禅覚煩
惑夢驚生死眠昏暁清響
劫々永傳
大戒菩提薩埵僧普川筆
普川國帥公鑄倉宝戒寺の第二世
應安七年四月十五日奉鑄之
神主 檀那沙弥釋阿弟十方四衆等
義道
勧進聖 大和権守國盛
工
薬師堂 本社の右にあり土人放下僧薬師と称せ
按ずるに放下僧ハ下野國住人牧野左衛門
何某が子にて兄を小次郎といへり
父左衛門上州伊香保の湯ニ浴せし頃相模國の住人刀祢彈正信俊と
いふ者と口論し信俊ニ討れしかば兄弟の
此瀬戸の三島明神の社前ゆゝしく放下僧と号る謡曲ありとも他の書ニ見えたり
三本杉 薬師堂のあるあたり根株相連りて三本生せしも
今ハなし
蛇混拍 延宝庚申の大風ニ吹折られしとそ
本社の右の傍にあり是も延宝八年庚申八月六日の暴風ニ吹倒され
其株長大なりしが竜蛇の起伏せるごとし
梅花無盡藏 文明竜集丙午十
有七己亥盤桓瀬戸六浦之濱遺廟之前掛昔時諸
老所作之詩杉邉傍点劃不眠如新鐫之云云
同書曰
瀬戸社
自注云六浦廟前有古柏屈蟠

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

遺廟拍圍六浦搗　朗吟繋馬石支腰
歸鴉飛破翠屏面　剰被風聲暁潮

鎌倉紀行　迫つの神社　本地ハ大通智勝佛伊豆と海一躰なりと神徳ことに
まことに海も恐れし神蛇の門
當社境内を千歳の古木雲を
なる山の勢ひ実に巨霊神の
此山を遷しゝなんとあやぶ
打寄る浪を下枝を洗ひ一根
清く我人の頭よ神もやとぞ

瀬戸辨財天　同社前道を隔て南の入海へ築出しなる
小島よあるを昔頼朝卿の御臺所平の政子御前江州
竹生島の御神を勧請せられるとあり　鴻の中混拍
植ありく

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

金龍院（きんりゅういん）
飛石（とびいし）

範頼墓
太寧寺
宰木

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

形甚奇なり 同搗の下に福石と唱ふるものあり 金澤四石と称す 土人の諺に此石の前を拾ひぬと云ふ あれハ必有福の事とかや云傳ふ

鎌倉紀行

社のあハ為そつそゝく無き天を恨ひ 況一才二の枝あり 為のめり左に 来海波ふあらん

波風もなきぬ大海をさゝめくの如くへよるを

圓通寺 日輪山と號す

同所二町半許西の方道より右り

ある昔法相宗ゆゑく南都法隆寺ゟ屬せしを今ハ天台宗に改むるく江戸の東叡山ゟ屬せり本尊ハ元三大師を安置せり

開山ハ法慧法印と号久世大和戻源廣之寺領を附せゝく

海藏庵

東照大権現宮 山の上ゟ鎮座なり 郡官

昇天山金龍院 同所西南の方四町餘を隔てゝ同し道の左側の海岸よあり 世俗飛石山と呼へり 禪宗にして

鎌倉の建長寺ゟ屬せり本尊ハ観音座像二尺三寸行基大士の作なり 鎌倉志ゟ亜空蔵菩薩と方崖元圭和尚を祀る

開山ハ和尚い俊約翁の法嗣なり 永徳三年九月十六日ゟ寂す 高さ一丈あまり廣さ九尺ゟ六尺

飛石

當寺後園の山のまゝ形よあるく高さ一丈あまり廣さ九尺ゟ六尺巨巖あるく背瀬戸の三島明神豆州ゟ此石上ゟ飛移りしと云ふれと近頃の地震よりて平地よ移りてあるよ

九覺亭跡

同し山の上よあり曲折して登るいくばくの人の儲くりし亭の詳ならざるも山形の眺望も又多景なり 寺僧云此地の八景ゟ能見堂を加へて見るべくゆゑく名つけゝるとぞ

泥牛庵

金龍院の前路を隔てゝ向側よあり禪宗にして

鎌倉圓覺寺

聖一國師の開法なり 建武三年中奥ハ習甫玄道座原と号せ十月七日寂崇寿寺の開山なり 寺の傳宗庵南山和尚諱ハ士雲

像を安せ此庵の開祖ハ圓覺寺の中興當菴の南一町斗山の上ゟ古墳二基あり其一ハ海老名長門守といゝる人の墓ゆゑく此人泥牛菴ゆゑく自害し

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

終ると云傳へるのみ久しく時世事實とのみ精しからず猶考へし

按ずるに海老名源三季貞後裔

荒井改法日荷上人加持水　同所農家金子氏の地に存する井を云その味甘美のみならず尤靈泉なり此所の小地名を荒井と称するを往古日荷上人荒井平次郎光吉と号しより此地に居住せしかば呼来るとなり

能仁寺舊跡　今の米倉渓の陣屋の地なり上杉憲方明月院道合の建立なり此寺ハ普の上の條下に詳なり

鎌倉志古記曰　上杉房州太守築武州金澤能仁寺創七守伽藍請方崖和尚為開山第一世殉山曰福壽殉寺曰能仁太守有旨陞能仁寺位列諸山著也永徳三年小春日東暉曇昕謹記又本尊建立永徳二年三月七日始之同年四月廿一日終住持東暉曇昕奉行徳慧徳澤檀那巨喜上總州法眼朝榮作之大檀那房州道合徳珠書之

能仁寺佛殿梁牌銘　鎌倉建長寺の龍峯庵にあり文左のごとし

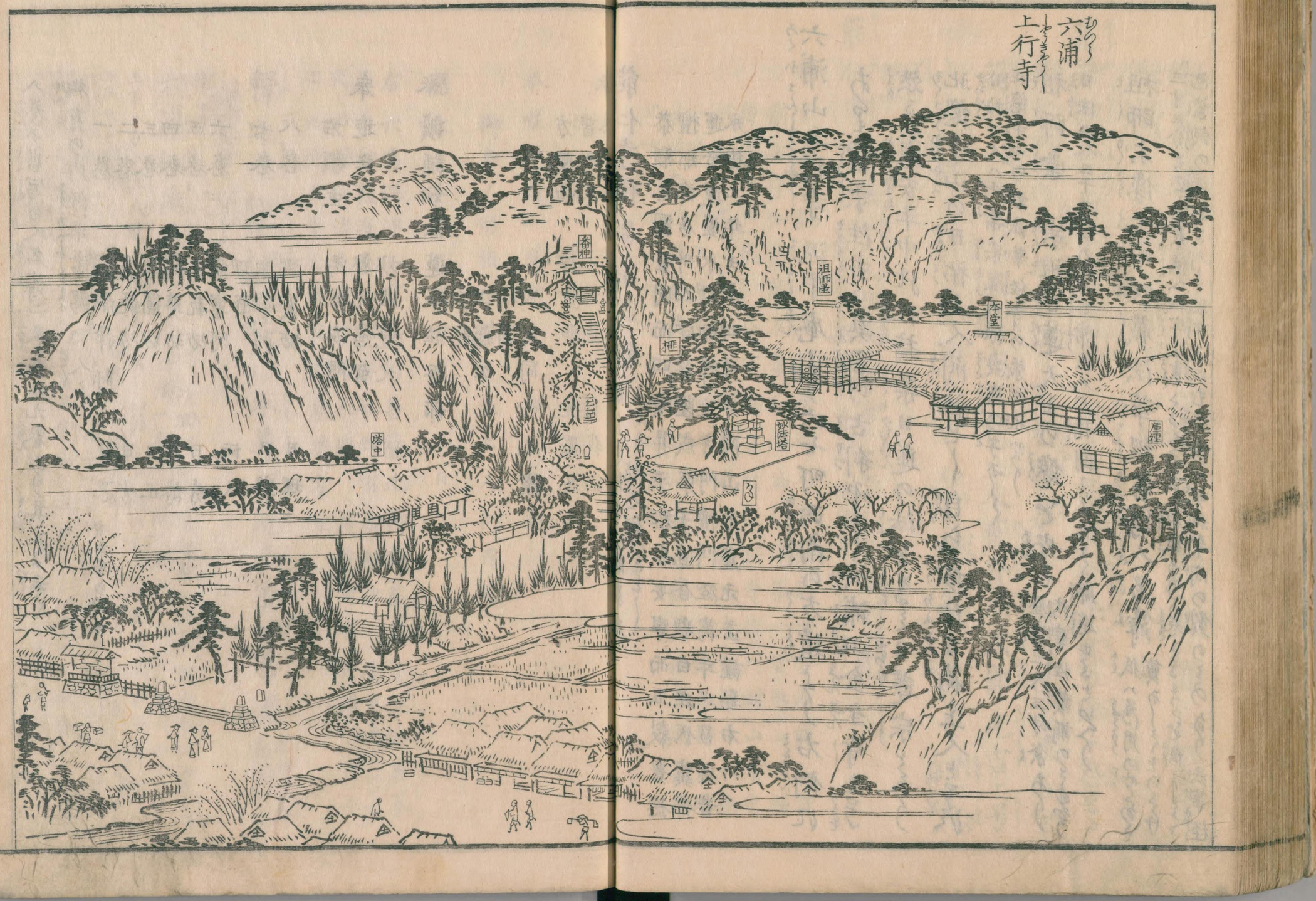
恭願皇圖肇固而四海昇平黎庶安寧而五穀豊稔檀那前房州太守菩薩戒弟子道合敬白在伏冀佛運帝運歷永劫而綿延寺門經萬年以昌盛耆永徳二年壬戌四月日開山方崖元圭謹題右

六浦山上行寺　泥牛庵より六七町西南の方道より右側にあり當寺往古ハ真言の古刹やらん六浦山金全寺と号然るに應安年中北住持某日蓮の法をうけ日蓮宗となり北徳中山の日祐上人開祖となり自ら妙法日荷上人と号法上人ハ千葉宗胤の孫貞胤の子なり北徳中山の妙法華経寺の第三祖なり

祖師堂　宗祖日蓮大士の像を安置　座像二尺三寸余あり法華経讀誦のため造るとなり

祖師木像胎中収蔵法華經書寫人名簿　紙ハ唐用のものなり三寸三分ほどの巻紙へ細字にて書くるとのみにて表紙もなく巻きまくるのみ紙ハ包紫銅の経筒へ入れ胎中へ収む経筒ハ明和年間の製のものなり法華経

六浦上行寺



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

八巻ホ書写の人名簿一巻共ホ九巻あり其文ヨ云く

御身の御経奉書写之人々

一巻　圓融律師　日源　安立坊の開山
二巻　良範坊　正秀
三巻　圓坊　正傳
四巻　祐奠坊　日入
五巻　良範坊　日宣
六巻　衆寧阿闍理　日理
七巻　衆寧阿闍理　日賢
八巻　賢坊　日理

奉讀誦妙法蓮華経五部

右願主
奉造立

卿公　沙門
妙光慈妾
妙法親父

奉讀誦妙法蓮華経五部

良範
上総公
正圓
一府同心久讚

方便品　壽量品　陀羅尼品
普賢呪経　自我謁
十如是

奉讀誦
十如是　自我謁　題目百廿五反

奉唱題目一萬反　日源敬白

御身ノ形相中老日法上人御作也

應永十三年丙戌十月十三日

右六萬恒沙上首上行菩薩此御利益者尓住迹用本名字初隨有喜形相身仕御附属妙法之要五字弘一天四海秘法良藥施萬人明心大施主等之成就所厳迷者也

釋迦堂　祖師堂の右ヨ並ム其間ヨ廊ヲ構ふ

本尊　釋迦多寶四菩薩　當寺往昔真訣宗

六浦妙法日荷上人石塔　祖師堂と釋迦堂との間樋の本にあり

上下ふ後人造り添ふるものと思ひ中一丈斗中股の石の横面ヨ文和二年六月十三日と刻付くあり妙法ハ當寺の大檀那中股の石の往古のまゝホーく妙法俗称を荒井平次郎光吉と号建長六年甲寅日蓮大士北總中山ヨ於ひ後相州名越ヨ帰らんとしの日冨木常忍と同舟ホく此六浦ヨ着岸ありホく此妙法上人未荒井平次郎光吉と称しホく上人ホ随従し出家得度の後妙法と号文和二年癸巳六月十三日示寂を依日荷上人と

謚も肖像ハ中山法華寺ニあり又別法の住
間ゝくゝの地を荒井と唱ふ前の日荷上人
記ニ曰別法禅門日荷上人ハ六浦荒井の城主揯磨守と号ると有
す或ハ此別法ハ杉田如法と弥ゝ北条時頼の臣ありと云ふれとも時頼逝去
以ゝ考ふるに時代ふひゝゝ

寶篋印塔 祖師堂の前左の方の山の裾にあり高さ一丈二尺ばかり塔の四面ニハ梵字を刻し横面ニ文治元年の年号を刻せり

當寺往古真言宗なりし證按ニ米倉家陣屋の上より上行寺の後の山續ハ知足山龍華寺の旧地なりし
と云今も上行寺の後の山より上畑道の号ニ花蔵院橋と号るものあり又昔龍華寺
支院花蔵院の門前ニあるニ因る名なり

鎌倉志ニ當寺什宝ニ位牌一枚ありて日祐上人の筆の曼陀羅を
彫其下に日祐上人一世の間引導せし人ゝの法号俗名残
挙ゝ應安三年と記せり又日祐
大士の消息等を存する由記されしともふ今當寺ニ
すと云ゝ

金剛山嶺松寺 同所三丁斗を隔て西南の方道より右側ニ
あり禅宗ニして建長寺龍峯庵ニ属せる末寺なり

六浦 東鑑ニ将軍家此地ニ遊覧のゝ往ゝこゝを
山傍ニよりて
東鑑六浦六連或ハ六面ニ作る
一日偸約翁の法副なり偖へ云當寺ハ千葉介胤義の建立ニと
鎌倉志ニ瀬戸明神の鐘の銘ニ神主平胤義とあり神主ハ
平姓千葉氏なれハ此人の建立歟千葉系圖ニも胤義と云
有り寺建立のゝいまゝ詳ならと云ゝ

又同書ニ建久三年壬子二月廿四日丁卯武蔵國六浦海辺ニ
於ゝ上總五郎兵衛尉忠光を梟首す義盛是をきる
云ゝ又鎌倉大草紙ニ應永四年正月廿四日小山若犬丸ら
子ども二人弱年ゆゑあるを會津の三浦左京太夫是を
呂捕鎌倉へ進上ゝるを実検の後六浦の海ニ沈らるゝ
とあり

未像を安置せり開山を月窓和尚と号ゝ諱ハ元暁紀州の人貞治元年十一月

侍従川
光傳寺

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

なるを生捕らんと六面の沖より漕ぎ寄せらるるとあらく烈しく聞ゆ
永禄の頃は小田原北条此地を領し六浦水帯分の地は
武田家へ付し同所大道分の地も龍源軒といふ付しなる由分限帳にみえたり

澤庵和尚鎌倉記行

あくれば八日の浦舎へ出ぬ
里あり
こゝも漁人のみなもあり

扨も六面の漁人のまうけ投入漁の多干潟の
漁士のすなどりあり

全

澤庵

六浦川　此地の道を横ぎりて流る小溝を云又此溝は架す
小橋をも六浦橋と号くといふ

専光寺の辺より光傳寺の辺迄の地の字を川村と称ふ按ずるに昔の水流の
日光山専光寺　嶺松寺より二町許
右側より浄土宗にて同所天然寺は属也本尊十一面観音八立像一尺許也傳云春日の作なりと云相傳ふ
照天姫の念持佛にて松葉ゆく燻らせし時身代
りに立ちまゐらせんと云傳へり寺の後の方は日光権現の宮
故に山号とも

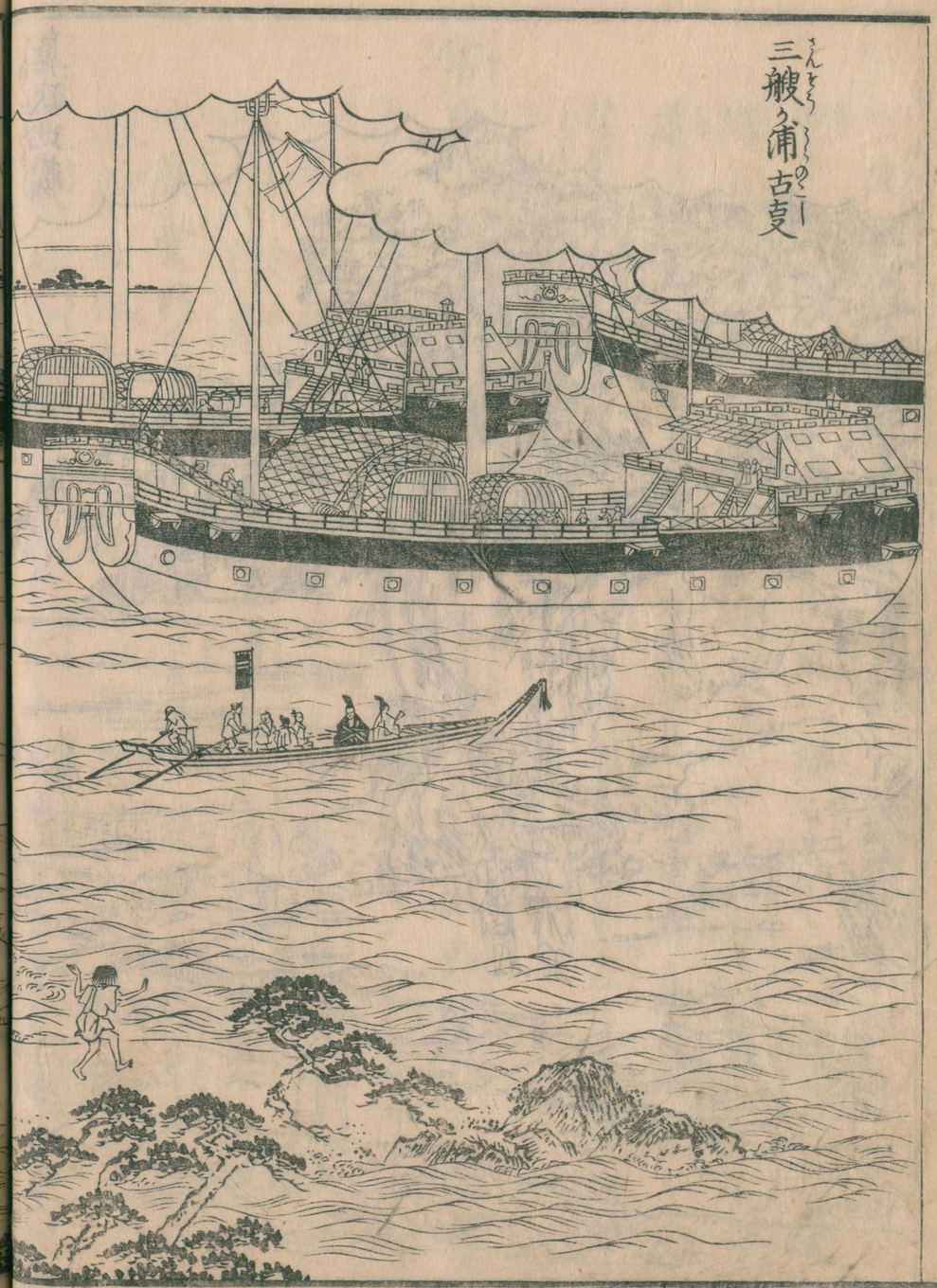
油堤　同じ寺の後の田圃を隔てて南の方小濱
なる山を油堤と云由土人云ふ
照天姫の乳母侍従といへるもの姫の粧具を携へ此所迄
尋来りしかども姫の行方杳として
具を捨て終に此の川へ身を沈めしを悲しみ故に号とす
となり
侍従川　川村と大間村との中間光傳寺の前を流る川の

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

鼻欠地蔵

下流をなす水源を鎌倉より發し未ハ三艘村より塩濱へ
出く海灣を會を瀬戸街道へ横ぎりく架を橋を待從
橋と号名義ハ油堤の条下よ云ゝやし此橋を渡りて右の
道ハ武蔵相模の國境地蔵の辻へ出く鎌倉へ往還の道
なる南行の道ハ三浦三崎への通路なる左の川傍の道ハ
三艘浦又相州境浦郷等への道なり
常見山光傳寺 同所北の端道より右側侍從川よ傍く
あり浄土宗みく鎌倉四尺弁天を作着あるへく
ぬ来の木像を立像ゆく
開山ハ得蓮社忍誉靈傳上人と号門の内右の方ゝ
地蔵堂ありて本尊地蔵菩薩ハ立像六尺半ありく
運慶の作ありと云地福山蔵光寺と号ゝ
界地蔵 土俗鼻欠地蔵と称ゝ光傳寺より九丁あまり

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用



三艘ヶ浦の古支

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

西の方鎌倉道の傍にあり巨巌の壁立したる所に此る像を鐫せるも像の鼻缺損を此所ハ武蔵相摸の國界ゆゑ峠村と号く

三艘浦　六浦の南向三艘村にあり永禄九年の春唐船三艘此浦に着岸せるを故ありて名付くとぞ鎌倉志云其時舟に載来るも一切経及ひ青磁の香爐花瓶等も皆海蔵山太寧寺　三艘ヶ浦の東瀬崎村にあり界地蔵より往古ハ二丁許ありと云

称名寺より往くこと

布金の道場ゆゑ薬師寺と号し真言宗なり此ころ蒲御曹司源範頼公生害あり後其法号を採て太寧寺と号ひ千光國師開山とあり

禅林ゐ轉〻鎌倉建長寺の属寺とぞ　薬師寺の号の廃せるを歎き三項寺前村の地へ某王寺を開創せり前の某王寺の下に詳なり

本尊薬師如来立像丈五尺あり十二神将の像ハ三尺許

あり共に運慶の作と鎌倉志に當寺勸進帳をうつし云往古　伏見帝永仁年間此村に貧女あり父母の忌日に當るをもつても佛に供養しき便なく絲を繰巻子とりくことを賣て佛餉を備へんとせり然れとも容易に買人なく或時童子一人来りて是を買ふ価を以て父母の忌日に供養の料に充よとありて佛前に至ると件の価を多くあるに依て知ぬ如来貧女の純孝の志を感しく自分以来へを薬師と云とあり

時其折願成就の報賽とて麻苧を脇巻ゆゑと云とぞ故に今も此寺の佛へ詣願のする人堂中に置て定門神供裏に範頼公建久四癸丑年八月と彫付

範頼墓　本堂の後の山麓にあり高さ一尺六七寸の五輪の石塔なり墓石を土中に埋む按ずるに異本源平盛衰記に範頼伊豆の修善寺に景時又頼朝に申して伊豆の修善寺を押寄父子三人五百餘騎ゆく

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

範頼八或坊ヶ小袖ヶ大口許ゆくおそしと差詰引詰散くに射ける矢種尽くるを
寄手多く射殺さるゝ矢種尽くるを其後景時煙を靜め範頼の焼首取
とゝあり鎌倉志ニ云くその級を此地ニ葬りしを未詳とあり

題太寧寺六首　絶海

朝送鐘聲落釣船　寺樓一抹晩江煙
光來無夢趁漁船　光矣身心機事外
間鷗容我社中眠　間鷗客我社中眠
一夜鷗邊看月眠　殘曉香消柏子煙
趁風隨岸幾移船　聞君去借江村宿
月落前灣猶未眠　六浦遙連三浦煙
雪後蘆花月滿船　興來撐棹窮佳處
幾人能得一菴眠　山街夕日水籠煙
還愛華亭載月船　蓋世功名身外事
三山翠映白頭眠　納衣懶惹御爐煙
失墜危於懸頽船　晩興遲留江上寺
白沙翠竹閉門眠　功名蓋世畫交煙
一錫歸來楓外寺

當寺書院ハ北ニ向ヒ瀬戸の入海を眼下ニ臨ム風光殊ニ
勝れたる寺寶ニ範頼自筆ニて古奇の懸幅及ひ陣中用
ら物と云長刀一振あり

笘根權現社　瀬崎の東室木村ニあり又民家の間ニ大樟の
老樹あり

崔ヶ浦　同所の南ニ出崎をいふ菅神の小祠あり故ニ土人ハ
天神崎とも称せ此地の海灣を浦の江と云

巾着巖　同所絶壁の下ニあり大さ二間四方許盤石なり潮尽
根附巖　同所百歩ばかりを隔てあり形ち全く巾着ニ似たる故ニ名ク
前の巾着岩ニ比しその名あり

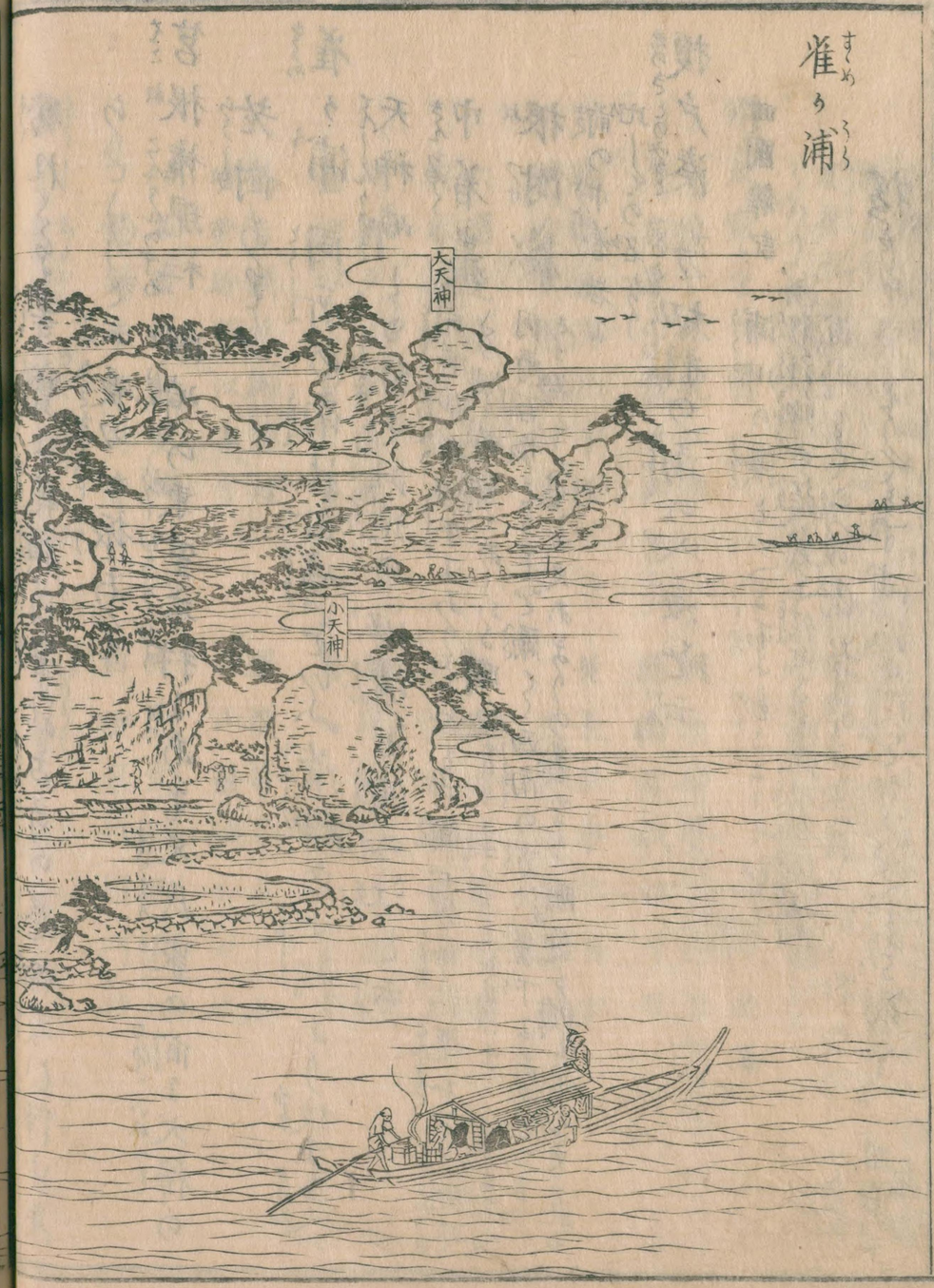
榎戸湊　刀七村の南の入海を云

田圃雜記

浦川の湊と云るハ牡蠣の名産ニて俗ニ倉ヶ谷深榎戸
海川とゝ三つの湊なりと浦の子門をあつかる家く

道興准后

雀ヶ浦（すゞめがうら）



国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

烏帽子島　同所東の出崎の小島をいふ形狀烏帽子に似
る故の名とせり
鎌倉記行　名所にしるせるもおろそかなり
夏島　同し東にあり長三町餘を横一丁斗の小島なり
里人云く玄冬の雪とのへとも積ることなしとのへり
鎌倉記行　裏白の名のこと
三冬ふも降白雪なれば
猿島　夏島の東南よりあり小島なり
裸島　同所二三町ばかり離れる小島なり
按ふに津庵和尚の遊金記行よりの名を挙く雲泳ふ
かくあれとも此よりの名を挙く猿島裸島二島の
中を指すにや

甲香　此れハ金澤の名産なり兼好法師の徒然草に甲
香ハ螺貝の様なるが小くして口の程狹く細長く出
貝の蓋なり武蔵國金澤と云浦よりとれるをいふ
尋ぬへしとあるハ野槌ハ今金澤
にも云とかや

江戸名所圖會天璇之巻　終畢

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

124
20
114

国立国会図書館　　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114